キニアラサレト余ハ他ニ此ノ原則ヲ無視スルニ足ルノ十分ナル理由アルヲ知ラス井上正一氏ハ此ノ規定ヲ以テ最モ公平最モ至當ニシテ宜キヲ得タルモノナリト説ケリ〔義解七〇八丁以下〕余之レニ服セス上來論述シタルカ如キヲ以テ抗告ノ名ハ之レヲ存スルモ妨ナシト雖モ其ノ組織ニ至テハ速ニ之レヲ改正セサルヘカラス民事訴訟法ニ規定シタル所ノ抗告ノ制亦タ其ノ揆ヲ一ニスルカ故ニ立法者此ノ改正ヲ難スヘシト雖モ一旦其ノ非ヲ覺リタル以上ハ斷然之レヲ實行スヘキナリ

○本條ニ據ルニ訴訟記錄ヲ抗告裁判所ニ送致スルハ豫審終結ノ決定ニ對シテ抗告アリタルトキニ限ル然レトモ他ノ場合ト雖モ抗告ニ係ル裁判ニ關係アル書類ヲ送致スルニアラサレハ抗告裁判所ハ十分其ノ當否ヲ判定スルヲ得サレハ本條且以下ヲ削除シ第二百五十六條ノ下ニ一言シタルカ如ク之レヲ通則ニ移スヲ可トス

○

第二百九十七條　抗告裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ書類ニ依リ抗告ノ裁判ヲ爲ス可シ

抗告裁判所ノ訴訟手續

本條ハ抗告裁判所ノ訴訟手續ヲ定メタリ

○抗告ハ公頭辨論ヲ用ユヘキ性質ノ裁判ニ對スル上訴ニアラス〔法律誤テ口頭辨論ヲ用ユヘキ性質ノ裁判ニ對シテ抗告ヲ許シタリ〕故ニ抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ單ニ書類ニ依テ裁判スヘキモノト定メタリ本條ニ至テ彼ノ證人、鑑定人ニ對スル罰金ノ言渡ニ對シテ抗告ヲ許シタルコトノ不當ナル所以ヲ知ルヘシ〔七八二丁以下〕是レ刑ノ裁判ハ如何ニ微罪タリトモ必ス口頭辨論ヲ用ユヘキモノナルニモ拘ラス之レヲ用ルコトナク單ニ書類ニ依テ爲サヽルヲ得サレハナリ

○

第二百九十八條　豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付キ抗告裁判

所ニ於テ必要ナリトスルトキハ受命判事ヲシテ事件ノ取調ヲ為シ報告ヲ為サシムルコトヲ得

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ為スコトヲ得

本條ハ豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ抗告裁判所受命判事ヲ命スルヲ得ルコト及ヒ受命判事ノ職權ヲ定メタリ

豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付テノ特則

○豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ抗告裁判所證憑集取ノ處分ヲ行フヲ要スルコト往々之レアリ是レ豫審判事ノ取調必スシモ常ニ十分ナルニアラサレハ抗告裁判所被告事件ニ付キ適當ナル裁判ヲ為サムトスルニハ或ル点ニ付キ補足ノ取調ヲ要スルコトアレハナリ而テ豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ハ控訴院之レヲ受理シ五名ノ組合判事之レヲ裁判スルカ故ニ此ノ取調ヲ為サムトスルトキハ必ス專任判事一名ヲ定メサルヘカラス是レ本條ニ「受命判事ヲシテ取調ヲ為シ報告ヲ為サシムルコトヲ得」トアル所以ナリ

受命判事ノ權限

受命判事ハ組合判事ニ代テ被告事件ヲ取調ヘ裁判ニ必要ナル材料ヲ集取スヘキ者ナレハ其ノ職務豫審判事ト毫モ異ルナシ然レトモ終結ノ言渡ヲ為スヲ得ス唯タ其ノ取調ニ因テ得タル結果ヲ其ノ取調ニ參與セサル他ノ組合判事ニ報告スルニ止マル

○

第二百九十九條　抗告裁判所ニ於テハ抗告ヲ許ス可キヤ否ヤ又抗告ノ期間內ニ於テ申立ヲ為シタルヤ否ヤヲ調査シ此要件ノ一ヲ欠クトキハ其抗告ヲ棄却ス可シ

不成立ナル抗告ノ處分法

本條ハ抗告裁判所抗告ノ成立不成立ヲ調査スヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ欠席判決ニ對スル故障ニ付キ第二百三十二條ニ規定シタル所ニ同シ其ノ意同條ノ下ニ之レヲ說明シタレハ玆ニ複說ノ勞ヲ取ラス

○

第三百條　抗告裁判所ニ於テ抗告ヲ理由アリトスルトキハ原裁

判ヲ取消シ自ラ更ニ裁判ヲ爲シ又抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却ス可シ

抗告ノ裁判法及ヒ其ノ理否

本條ハ抗告裁判所ノ裁判法ヲ定メタリ

〇抗告ハ控訴ト同ク覆審ヲ求ルノ上訴ナレハ其ノ性質控訴ト同一ナラサルヘカラス立法者既ニ控訴ノ性質ヲ誤認シ第二百六十一條ニ控訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之レヲ棄却スヘク又タ其ノ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決スヘシト定メタリ本條ニ至テ亦タ其ノ誤認ヲ繼承シ抗告ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決スヘク又タ之レヲ理由ナシトスルトキハ之レヲ棄却スヘシト定メタリ其ノ性質ヲ誤認シタルコトハ第二百六十一條ノ下ニ之レヲ詳論シタレトモ抗告ト控訴トハ多少異ル所アルカ爲メ或ハ此ニ疑ヲ容ルヽ者ナキヲ保セサレハ左ニ少シク此ノ点ヲ辨スヘシ

抗告ハ終局判決前ノ手續ニ關スルモノト終局判決ニ關スルモノトニ論ナク事ヲ一裁判所又ハ一判事ノ裁判ニ專任スルニ足ラスト認メ第二級裁判所ヲ設ケ覆審ヲ許シタル事件ニ付キ爲スモノニシテ上告ノ如ク其ノ裁判ノ瑕瑾ヲ匡正セムカ爲メニ定メタル上訴ニアラス是レ上告ニ付テハ之レヲ爲スヲ得ルノ原由ヲ定メタリト雖モ抗告ニ付テハ控訴ト同ク之レヲ定メサルニ由テ容易ニ知ルヲ得ヘシ故ニ訴訟關係人抗告シタルトキハ原裁判其ノ效力ヲ失ヒ抗告裁判所ハ原裁判ニ係ル事件ニ付キ新ニ審判シ若シ其ノ裁判ト原裁判ト符合スルトキハ原裁判ヲ認可シ以テ其ノ效力ヲ復セシムヘク抗告ノ理由アリヤ否ヤヲ取調ヘ理由ナシトスルトキ抗告ヲ棄却スヘキ性質ノモノニアラス故ニ本條ハ宜ク之レヲ改メ「抗告裁判所更ニ裁判スヘシ但シ其ノ裁判ト原裁判ト符合スルトキハ原裁判ヲ認可スヘシ」トスヘキナリ

抗告裁判所豫審終結ノ決定

〇本條ニ付キ一ノ疑問アリ抗告裁判所ハ豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ノ審理中共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アルコト又ハ附帶事件ヲ發見シ

ニ對スル抗告ノ審理中共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アルコト又ハ附帶事件ヲ發見シタルトキ之レニ付キ裁判スルヲ得ルヤ否ヤ

タルトキ之レニ付キ裁判スルヲ得ルヤ否ヤノ点是レナリ治罪法第二百五十五條ニ曰ク「會議局ニ於テ故障ノ取調中共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アルヿ附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ受ケサル者アルヿヲ發見シタル時ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ其報告書ヲ差出サシム可シ○檢事ハ意見書ヲ差出ス可シ○會議局ニ於テハ報告書其他訴訟書類ニ依リ故障ト共ニ之ヲ判決ス可シ」ト新法ニハ此ノ明文ナケレハ抗告裁判所ニ其ノ權ナキカ如シト雖モ豫審判事此等ノ点ニ付キ審判スルヲ得ル以上ハ抗告裁判所亦タ之レヲ爲スヲ得ルモノト解セサルヘカラス豫審判事ニ此ノ職權アルコトハ第六百十七條ノ下ニ詳ナレハ玆ニハ抗告裁判所ニ之レアル所以ヲ一言スルニ止ムヘシ

立法者ハ抗告ノ本然ノ性質ヲ誤認シタリ此ノ誤認ニ從フトキハ抗告裁判所ハ法ニ明文アルニアラサレハ訴ヲ受ケサル共同被告人、豫審ヲ受ケサル附帶事件ヲ審判スルノ職權ナシト論決セサルヘカラス是レ豫審判事ノ共同被告人又ハ附帶事件ニ付キ裁判セサルハ不當ノ處分ニアラサレハ抗告ヲ理由ナシトシテ之レヲ棄却セサルヲ得サレハナリ然レトモ其ノ誤認タルコト明カナルモノハ法文ニ現ハレタル点ニ付テハ改正ヲ求ルノ外途ナシト雖モ他ノ点ニ至テハ之レニ倣フニ及ハサレハ余ハ其ノ本然ノ性質ニ復シ抗告裁判所ハ第二級ノ裁判所ナリ事件ヲ覆審スル所ナリ之レヲ覆審スルニ付テハ豫審判事ト全ク同一ニ歸スルモノナリ故ニ豫審判事ノ職權ニ屬スルモノハ亦タ総テ抗告裁判所ノ職權ニ屬スルモノナリト斷言スルニ躊躇セサルヘシ然ルニ井上正一氏ハ此ノ点ニ付キ下ノ如ク論セリ曰ク「抗告裁判所ニ於テ抗告ノ取調中共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アルヿ又ハ附帶ノ犯罪ニ付豫審ヲ受ケサル者アルヿヲ發見シタルトキハ如何、蓋舊治罪法第二百五十五條ニ於テハ故障ノ取調中同上ノ二者ヲ發見シタルトキハ檢事ノ請求

井上正一氏ノ所說

ニ因リ又ハ職權ヲ以テ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ其報告書ヲ差出サシメ故障ト共ニ相當ノ判決ヲ爲ス可キモノト規定シタリト雖𪜈本法ニ於テハ同一ノ明文ナキカ故ニ抗告裁判所ニ於テハ單ニ檢事ニ告發ヲ爲スヘキモノナランノミ○然ルニ或ハ說ヲ爲ス者アリ曰抗告ノ取調中共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アルヿヲ發見シタル塲合ニ於テハ抗告裁判所ハ權限ヲ以テモ尙ホ其取調ニ着手スルヲ得ヘシ是レ敢テ不告不理ノ原則ニ牴觸スルヿナシ是レ他ナシ起訴ハ事件其者ニ付キ爲シタルモノナルカ故ニ抗告裁判所カ受理シタルモノ亦事件其者ニシテ初メ指名セル被告人一名若クハ二名ヲ限リ特ニ之ヲ受理シタルニ非サレハナリト○惟フニ此說ハ或ル特定ノ塲合ニ於ケル法律ノ精神ニ淵源シ遂ニ其要領ヲ失ヒタルモノナランノミ何ヲ以テ云爾曰論者ハカノ時効ノ期間ヲ中斷スルヿニ付キ第十一條ニ規定スル中斷ノ手續ハ未タ發覺セサル正犯從犯及ヒ民事擔當人ニモ亦効力ヲ及ホストノ規定ヲ速了シ又其理ヲ玆ニ應用セントスルモノニ似タレハナリ蓋時効ノ期間ヲ中斷スル事タル嘗テ解說シタルカ如ク檢事ヨリ起訴ノ手續ヲ爲シ又豫審若クハ公判ノ手續ヲ爲シテ以テ社會カ未タ其犯罪ヲ遺忘セサルヿヲ江湖ニ表章スルニ外ナラサルナリ果シテ然ラハ則共犯中或ル一人ニ對シテハ中斷ノ効以テ社會ノ遺忘セサルヿヲ表章スルニ足リ他ノ一人ニ對シテハ中斷ノ効以テ社會ノ遺忘セサルヿヲ表章スルニ足ラストス理萬々之レアル可カラス該條ノ規定アル洵ニ宜ナリト云フ可シ論者カ斯カル理由ニ依リ特定ノ塲合ニ於ケル法律ノ精神ヲ以テ直チニ之ヲ他ノ塲合ニ援引セントスルハ抑々思ハサルノ甚シキモノ而巳今假ニ公訴ハ常ニ事件其者ニ付キ之ヲ爲スモノニシテ特定ノ被告人ニ對スルモノニアラストセン乎將ニ左ニ示スカ如キ不都合アラントス卽チ豫審判事ハ被告人ニ對シ一タヒ豫審終結ノ決定ヲ爲シタル後他ノ事件取調中其前キニ決定シタル事件ノ共犯者

ニシテ未タ起訴ヲ受ケサル者アルヿヲ發見シタル𪜈ハ其共犯者ニ付テハ亦直チニ豫審ヲ爲シ得ヘク抗告裁判所ニ於テモ亦抗告ニ付テノ裁判ノ後亦同樣ノ處分ヲ爲シ得ヘク又公判ニ於テモ其訴ヲ受ケタル被告人ニ對シ判決ヲ爲シタル後亦以前ニ受理シタル事件ノ共犯者ニ對シ判決ヲ爲シ得ルニ至ヘク是レ皆ナ論者ノ主說ヨリ生スル當然ノ結果ナリ豈ニ復奇ナラスヤ要スルニ論者ノ說其當ヲ得サルナリ○抗告ノ取調中附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ受ケサル者アルヿヲ發見シタル場合ニ於テ直チニ取調ニ着手スルヿヲ得サル理由ハ敢テ前段共犯者ニ付キ述フル所ニ異ナラス卽チ到底不告不理ノ原則ヲ護守セサルヲ得サルナリ」ト〔義解七一一丁以下〕氏ニシテ此ノ論アルハ實ニ怪ムニ堪ヘタリ何トナレハ氏ハ公判通則ノ部ニ於テ公訴ハ事件ニ付テ起ルモノナリト明言シナカラ〔下ノ六五丁以下〕抗告ニ關シテ恰モ忘レタルカ如ク特定ノ被告人ニ對シテ起ルモノナリト論スレハナリ茲ニ至テ氏ノ義解或ハ餘人ノ手ニ成リタルニアラサルナキヤヲ疑フ

抗告裁判所ハ被告人ノミノ抗告ニ係ルトキ原裁判ヨリ被告人ノ不利ナル裁判ヲ爲スヲ得サルカ井上氏ノ所說及ヒ其ノ當否

○或問抗告裁判所ハ被告人ノミノ抗告ニ係ルトキ原裁判ヨリモ被告人ニ不利ナル裁判ヲ爲スヲ得サルカ井上氏ハ第二百六十五條及ヒ第二百九十一條ノ規定ヲ抗告ニ準用スヘシト說ケリ〔述義九一九號余之レニ服セス忌避ノ申請ヲ不當ナリト決定シタルトキ及ヒ期間ヲ經過シタル控訴上告ノ申立ヲ棄却シタルトキハ利不利ノ問題ヲ生スヘカラサレハ餘ノ場合ニ就テ左ニ之レヲ辨スヘシ

一豫審終結ノ決定ニ對スル抗告○豫審終結ノ決定ハ確定シタリト雖モ公判裁判所ハ之レニ拘束セラルヘキニアラス故ニ抗告裁判所豫審終結ノ決定ヨリ重キ事實ヲ認メタルトキハ被告人ノ抗告ニ係ルトキト雖モ其ノ認メタル所ニ從ヒ裁判シテ毫モ妨ナシ抗告裁判所事實ニ反シテ原決定ト同一ナル決定ヲ爲スモ其ノ決定ハ公判裁判所ヲ拘束スルノ力ナケレハ全ク徒勞ニ屬シ被告人ノ利益ヲ保護セムトスルモ

其ノ目的ヲ貫クヲ得サルナリ

二、證人、鑑定人ニ言渡シタル罰金ノ決定ニ對スル抗告○此ノ塲合ニ於テハ抗告裁判所被告人ノミノ抗告ニ付キ原裁判ヨリ重キ裁判ヲ爲スハ不當ナリ然レトモ是レ立法者ノ誤ヲ此ノ種ノ裁判ニ對シ抗告ヲ許シタルカ爲メナレハ若シ此ノ不正ノ結果ヲ厭ハヽ速ニ罰金ノ言渡ニ對シ抗告ヲ許スノ制ヲ改メ正式裁判ヲ求ルヲ得ルノ法ヲ設クヘキナリ〔七八三丁以下〕

三、執行裁判ニ對スル抗告○此ノ塲合ハ確定判決ノ解釋ヲ爲スニ止マレハ其ノ解釋ノ被告人ニ利益ナルト否トヲ問フヘカラス捕ニ就キタル者人違ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判ノ解釋ヲ爲スモノニアラサレトモ其ノ者ノ果テ判決書ニ明示シタル被告人ナリヤ否ヤヲ決スルニ止マリ別ニ不利益ヲ重ヌルコトナシ

石渡氏ノ所說

石渡氏曰ク「控訴上告ノ手續中規定アルモノニシテ抗告ノ訴訟手續中ニ規定ナキモノハ所謂原裁判ヲ被告人ノ不利益ニ變更スルコトヲ得ストノ規定是レナリ故ニ抗告裁判所ハ被告人ノ抗告シタルニモ拘ラス尙ホ被告人ノ不利益ニ原決定ヲ變更スルコトヲ得可シ」ト〔刑事訴訟法四六八丁〕充當ナリ

第六編　再審

再審

〇本編凡テ九條再審ニ關スル法則ヲ定メタリ

再審ノ訴ハ非常上告ト同ク確定判決ノ效力ニ拘ルコトナク被告人ノ利益ノ爲メ刑事ノ確定判決ニ對シテ更ニ審理セラレムコトヲ求ルノ訴ナリ唯タ其ノ非常上告ト異ル所ハ彼レハ法律点ニ明白ナル錯誤アルトキ之レヲ爲シ上告裁判所直ニ之レヲ判決スレトモ此レハ事實点ニ明白ナル錯誤アルトキ之レヲ爲シ上告裁判所直ニ判決スルコトナク他ノ事實裁判所ヲシテ更ニ事實点ニ付キ審判セシムルノ点ナリ蓋シ確定判決ノ效力ヲ貴ムハ訴訟法ノ基礎ニシテ之レヲ沒スルハ其ノ基礎ヲ搖カスモノナリト雖モ而モ天下ノ人皆ナ以テ判決ニ錯誤アリトスル場合ニ於テハ必ス之レヲ更正セサルヘカラス若シ然ラスシテ一ニ確定判決ノ效力ヲ重ンシ之レニ偏倚シテ其ノ錯誤ヲ改メサルトキハ確定判決ノ效力ヲ重ンシテ却テ之レヲ輕ンセシムルノ結果ヲ生スヘシ是レ判決ハ世人ノ之レヲ信用スルニ因テ其ノ效力ヲ維持スルモノナレハ天下ノ人ノ皆ナ以テ誤レリトスル判決ヲ改メサルトキハ判決ノ信用全ク地ニ墜ツヘケレハナリ

〇

第三百一條　再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得但判決確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一　人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタルモ其殺サレタリト認メラレシ者犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ

第二　同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキ

第三　犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其場所ニ

在ラサルコトヲ證明シタルトキ

第四　被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキ

第五　公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ僞造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第六　判決ノ憑據ト爲リタル民事上ノ判決他ノ確定ト爲リタル判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタルトキ

本條ハ再審ノ訴ノ性質及ヒ其ノ原由ヲ定メタリ

再審ノ訴ノ性質

〇再審ハ確定判決ノ効力ノ例外ニ屬スルモノナレハ確定判決ニ對スルニアラサレハ之レヲ爲スヲ得ス判決未タ確定セサルトキハ通常上訴ヲ以テ其ノ錯誤ヲ匡正スヘク此ノ非常ノ途ニ由ルニ及ハス又タ再審ノ訴ハ非常上告ト同シク被告人ノ利益ノ爲メニ爲ス所ノ訴ナレハ國家ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲スヲ得ス蓋シ此ノ錯誤ヲ爲シタルハ國家ナレハ國家其ノ責ニ任スヘク其ノ責ナキ被告人ヲシテ之レニ任セシムヘカラサルナリ

又タ再審ノ訴ハ非常上告ト異テ重罪、輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シテ之レヲ爲スヲ得レトモ違警罪ノ刑ノ言渡ニ對シテ之レヲ爲スヲ得ス是レ違警罪ノ刑ハ極テ輕微ナレハ之レカ爲メ特ニ此ノ非常ノ途ヲ開クニ及ハストシタルモノナラム然レトモ違警罪ノ刑ト雖モ無辜ノ民之レヲ受ルニ於テハ其ノ名譽ヲ損スルコト少ナカラサレハ非常上告ト同ク此ノ取除法ヲ廢セラレムコトヲ希望ス

再審ノ訴ヲ爲シ得ヘキ原由　第一原由

〇是レヨリ再審ノ訴ノ原由ヲ說明スヘシ

第一原由〇謀故殺、過失殺ト毆打致死トヲ問ハス殺人罪ハ其ノ目的タル人ノ死去ヲ以テ欠クヘカラサル元素トス故ニ殺サレタリト認メラレタル者其ノ罪ニ因テ死去セサルノ確證アルトキハ其ノ判決錯誤ニ出テタルコト明白ナリ然レトモ亦タ必スシモ人ヲ殺シタル罪ニ付キ

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ無罪ナリト謂フニアラス或ハ既ニ殺害ノ事ヲ行ヒタリト雖モ未タ遂ケサリシモノナルカ或ハ被害者ヲ歐打創傷シタルニ止リ之レヲ死ニ致サヽリシモノナルカ或ハ他人ヲ殺害シタルモノナルカ未タ知ルヘカラス唯タ殺サレタリト認メラレタル者殺サレタルニアラサルトキハ其ノ判決ノ錯誤ニ出テタルコト敢テ脛毛ノ疑点ヲ存セサレハ之レヲ以テ再審ノ原由トシタルナリ

殺サレタリト認メラレシ者罪ニ因テ死去シタルニアラサルトハ如何ナル場合ヲ謂フカ

此ノ第一ノ原由ニ付テハ二个ノ問題ヲ決セサルヘカラス曰ク殺サレタリト認メラレタル者罪ニ因テ死去シタルニアラサルトハ如何ナル場合ヲ謂フカ曰ク其ノ罪ニ因テ死去セサルコトハ何ニ依テ之レヲ證スヘキカ是レナリ

一、本條ニ曰ク「其殺サレタリト認メラレシ者犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アルトキ」ト固ヨリ當然ナリ唯タ犯罪ノ日ハ判事ノ認定スヘキモノナレハ原判決ニ記載シタル所ニ從テ其ノ前後ヲ區別セサルヘカラス故ニ或ハ其日時ノ認定ニ錯誤アリテ其ノ實被告人ノ之レヲ殺害シタルニ相違ナキコトナキニアラス然レトモ原判決ニ犯罪ノ日ヲ明示シタル以上ハ假ニ之レヲ標準トスルノ外他ニ確實ナルモノナケレハ其ノ前後ニ依テ再審ノ原由アリヤ否ヤヲ決セサルヘカラス再審ノ原由ノ有無ハ之レニ依テ之レヲ決スレトモ事實ヲ覆審スヘキ裁判所ハ原判決ニ拘束セラルヽコトナケレハ時ニ有罪ヲ釋スノ要ナシ治罪法ニ「人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後其言渡ノ日ニ當リ殺サレタリト認メラレシ者現ニ生存シ……」トアリタリ「第四百三十九條」實ニ裁判言渡ノ日ニ當リ殺サレタリト認メラレタル者生存シタルトキハ其ノ判決錯誤ナルコト最モ明白ニシテ何人カ之レヲ取調ルモ決テ之レヲ錯誤ニアラストスルヲ得スト雖モ既ニ原判決ニ明示シタル犯罪ノ日時ヲ以テ確實ナルモノトシ其ノ以前ニ死去シタルノ證アルトキ之レヲ以テ再審ノ原由トシタル以上ハ其ノ日後ニ

生存シタルノ證アルトキハ艮シ裁判言渡ノ日ニ當リ生存シタルニアラサルモ尙ホ之レヲ以テ其ノ原由トスルコトヲ許サヽルヘカラス此ノ点ハ治罪法釋義ニ之レヲ論述シタリ立法者舊法ノ「裁判言渡ノ日ニ當リ」ヲ改メ汎ク「犯罪後」トシタルハ誠ニ能ク其ノ當ヲ得タルモノナリ」

證據法

二、證據ノ点ニ付テハ本條ニ單ニ確證アリタルトキトノミアリテ之レニ制限ヲ設ケサレハ如何ナル性質ノ證據ト雖モ苟モ上告裁判所ヲシテ犯罪前死去シ又ハ犯罪後生存シタリト信セシムルニ足ルモノアラハ之レヲ提出シテ再審ヲ求ルヲ得ト解セサルヘカラス

第二原由

第二原由〇罪ハ必スシモ一人ニテ犯スモノニアラス數人共ニ一罪ヲ犯スコト世間比々之レアレハ同一事件ニ付キ數人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ敢テ怪ムニ足ラス然レトモ共犯ニアラサル者數名同一事件ニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ孰レカ一方ノ者ハ無罪ナルヘク否レハ共犯ニアラストシタル判決誤レルモノナレハ此ノ場合ニ於テハ其ノ事件ヲ再審シ無罪者アラハ之レヲ放免スヘク共犯ナレハ其ノ事實ヲ明カニスヘキナリ

共犯ニアラスシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アルト共犯ナリトシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アルトハ判決ニ之レニ明示シタルト否トニ依テ區別スヘシ而テ一方ノ判決ニ共犯ナルコトヲ明示シタルト雙方ノ判決ニ之レヲ明示シタルトヲ問ハス其ノ明示ニ依テ彼此共犯ナルコトヲ知得ルトキハ再審ノ訴ヲ許サス之レニ反シ一方又ハ雙方ノ判決ニ共犯ナルコトノ明示アリト雖モ其ノ判決ヲ受ケタル者ノ共犯ナルコトヲ示スニ足ラサルトキハ再審ノ訴ヲ許ス例ヘハ一方ノ判決ニ甲ハ何年何月何日某所ニ於テ云々ノ罪ヲ犯シタリト明示シ他方ノ判決ニ乙ハ同日同所ニ於テ甲ト共ニ云々ノ罪ヲ犯シタリト明示シタルトキハ一方ノ判決ニ共犯ナルコトノ明示アルニ過キサレトモ之レニ對シテ再審ノ訴ヲ許スヘカラス之レニ反シ一方ノ判決ニ甲乙ト共

ニ云々ノ罪ヲ犯シタリト明示シ他方ノ判決ニ乙丙ト共ニ云々ノ罪ヲ犯シタリト明示シ其ノ罪同一ナルトキハ雙方ノ判決ニ共犯ナルコトノ明示アリト雖モ必ス再審ノ訴ヲ許サヽルヘカラス

此ノ第二ノ原由ハ第一ノ原由ヨリモ其ノ例多シ余ハ現ニ明治十五年ヨリ同十九年ニ至ルマテノ間此ノ原由ニ基ク再審ノ訴二三アリタルコトヲ知レリ

第三原由

第三原由○凡百ノ行爲ハ之レヲ爲スニ必ス場所アリ某所ニ於テ罪ヲ犯シタリト認メラレタル者當時其ノ場所ニ在ラサルトキハ其ノ罪ヲ犯サムトスルモ能ハサレハ原判決ハ無罪者ニ對シテ刑ノ言渡ヲ爲シタルニアラサレハ必スヤ罪ノ場所ヲ誤リタルモノナリ故ニ之レヲ以テ再審ノ一原由トシタリ

本條ニ謂ヘル其ノ場所ニ在ラサルトハ必スシモ犯所ニ在ラサルノ謂ニアラス罪ニ加功スルノ所爲ヲ行ヒタリト認メラレタル場所ニ在ラサルヲ謂フ故ニ甲大阪ニ於テ人ヲ銃殺シ乙京都ニ於テ情ヲ知テ甲ニ銃ヲ貸與シタリト認メラレタルトキ乙之レヲ貸與シタリト認メラレタル日京都ニ在ラサリシトキハ再審ノ訴ヲ許スヘキモ甲ノ人ヲ殺シタル時其ノ犯所大阪ニ在ラサリシヲ理由トシテ之レヲ爲スヲ得ス是レ乙ノ罪ニ加功スルノ事ヲ行ヒタル場所ハ京都ニシテ大阪ニアラサレハナリ

本條ニ據ルニ罪ニ加功スルノ事ヲ行ヒタル場所ニ當時在ラサリシ事實ハ犯罪前作リタル公正證書ヲ以テ之レヲ證セサルヘカラス公正證書ヲ以テスルコトヲ要スルハ是レ此ノ證據ニ制限ヲ設ケサルトキハ往々詐僞ノ證據ヲ造リ法綱ヲ僥免セムコトヲ計ル者アルノ恐アレハナリ又タ其ノ公正證書ノ犯罪前作リタルモノナルコトヲ要スルハ是レ其ノ後作リタルモノハ或ハ罪ヲ免カラシメムカ爲メノモノナルヤモ知ルヘカラサルカ故ナラム然レトモ此ノ制限ハ宜ク之レヲ削除ス

ヘキナリ何トナレハ犯罪後作リタル公正證書ニシテ其ノ前作リタルモノト同一ナル效力ヲ有スルコトアルノミナラス罪ヲ免カラシメムト欲スル者ハ必スヤ其ノ日時ヲ既往ニ遡ラシメテ之レヲ作ルヘケレハ此ノ制限ヲ設ルモ實際上其ノ目的ヲ達スルヲ得サレハナリ例ヘハ明治二十五年四月十六日東京ニ於テ罪ヲ犯シタリト認メラレタル者同年同月十七日長崎ニ於テ某公證人ノ面前ニ至リ或ル證書ノ立會人ト爲リタルノ證アルトキノ如キハ其ノ公正證書ノ日附ハ犯罪後ナリト雖モ被告人ノ十六日ニ東京ニ在ラサリシコトハ十分之レヲ證スルニ足レハナリ

第四原由

第四原由○證人、鑑定人又ハ通事詐僞ノ供述ヲ爲シ又ハ判事、檢事等賄賂ヲ收受シ又ハ之レヲ聽許シ若クハ情ニ徇ヒ怨ヲ挾ミ被告人ヲ陷害シタルニ因テ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ之レカ爲メ必スシモ原判決ニ錯誤アリト謂フニアラサレトモ亦タ其ノ裁判ニ錯誤アルヘシトノ推測十分ナレハ之レヲ以テ再審ノ原由トシタリ

此ノ第四ノ原由ニ付テハ二个ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス曰ク陷害者ノ罪ニ對スル公訴刑ノ言渡後ニ在ルコト曰ク陷害者ニ對スル刑ノ言渡確定シタルコト是レナリ

條件ノ一

第一條件　陷害者刑ノ言渡ヲ受ケタルトキ之レヲ原由トシテ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ許スハ是レ其ノ判決ニ錯誤アリトノ推測十分ナルカ故ナリ然ルニ原裁判所ノ被告人ニ對シテ刑ノ言渡ヲ爲ス以前陷害者ニ對スル公訴起リタルトキハ或ハ裁判所ノ他ノ職員代テ裁判所ヲ組織シタルヘク或ハ其ノ事件ノ審判ヲ停止シタルヘケレハ之レカ爲メ其ノ判決錯誤ニ陷ルコトアルヘカラス唯タ原裁判所陷害者アルコトヲ知ラスシテ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキノミ錯誤ニ陷リタルヘシトノ推測十分ナルモノナレハ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル後陷害者ニ對シテ公訴アリタルコトヲ必要トス余ハ治罪法釋義ニ被告人刑ノ言渡ヲ

受ケタル後陥害者ニ對シテ刑ノ言渡アリタルコトヲ必要トスト論シタレトモ裁判所證人、鑑定人等ノ詐僞ノ供述ヲ發見シ其ノ事件ヲ豫審判事ニ送付シ其ノ供述ヲ證據トセスシテ判決シタルトキノ如キハ再審ノ訴ヲ許スノ理ナケレハ茲ニ前説ヲ改メ刑ノ言渡其ノ後ニ在ルコトヲ要スルノミナラス亦タ公訴其ノ後ニ在ルコトヲ要ストシタリ

條件ノ二

第二條件　陥害者ノ刑ノ言渡確定スルニアラサレハ彼レ果テ陥害シタリヤ否ヤ判然タラス故ニ確定後ニアラサレハ之レヲ理由トシテ再審ヲ求ルコトヲ許スヘカラス若シ然ラスシテ刑ノ言渡アリタルトキ直ニ再審ヲ求ルヲ得セシメムカ上告裁判所再審ヲ許シタル後陥害者ト認メラレタル者無罪ニ歸シ徒ラニ再審ヲ爲スニ至ルコトアルヘキナリ

民事訴訟法ニハ陥害者ノ刑ノ言渡確定スルコトヲ要スルノ明文ヲ掲ケタリ其ノ第四百六十九條ニ曰ク「第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰セラル可キ行爲ニ付テ判決カ確定ト爲リタルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サルトキニ限リ再審ヲ求ムルコトヲ得」ト其ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ要スルハ固ヨリ可ナリト雖モ又ハ以下ニ至テハ余之レニ服セス此ノ點ハ本書ニ關係ナケレハ茲ニ之レヲ辨セス

參考人詐僞ノ供述ヲ爲シタルトキ之レヲ原由トシテ再審ノ訴ヲ爲シ得ルカ

或問參考人詐僞ノ供述ヲ爲シタルトキ之レヲ原由トシテ再審ヲ求ルヲ得サルカ曰ク本條ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキトアリテ刑法ニ詐僞ノ供述ヲ爲シタル參考人ヲ罰スルノ明文ナケレハ之レヲ原由トシテ再審ヲ求ルヲ得スト決セサルヘカラス然レトモ事實參考人ノ供述亦タ裁判ノ材料タルモノナレハ余ハ速ニ刑法ヲ改正シ事實參考人詐僞ノ供述ヲ爲シタルトキ亦タ之レヲ罰シ之レヲ原由トシテ再審ヲ求ルヲ得セシメラレムコトヲ希望ス

第五原由

第五原由○訴訟記錄中裁判ノ材料タルモノアリ裁判ノ公正ヲ表スル

ノ證據タルモノアリ其ノ裁判ノ材料タルモノニ偽造又ハ錯誤アルトキハ其ノ判決ニ錯誤アルヘシトノ推測十分ナリ又タ其ノ裁判ノ公正ヲ表スルノ證據タルモノニ偽造又ハ錯誤アルトキハ其ノ裁判公正ヲ維持セサリシモノナリヤノ嫌疑十分ナリ故ニ之レヲ以テ再審ノ原由トシタリ

此ノ第五ノ原由ハ公正證書ヲ以テ之レヲ證スルコトヲ要ス盖シ詐偽ノ證據ヲ防カムカ為メナリ

本條ニ單ニ訴訟記錄トアレトモ之レヲ判決ノ用ニ供シタルモノ又ハ裁判ノ公正ヲ證スルノ用ニ供スヘキモノニ限ラサルヘカラス其ノ用ニ供セサリシモノハ其ノ判決ニ影響ヲ及ホスノ理ナク又其ノ用ニ供スヘカラサルモノハ裁判ニ全ク關係ナケレハ縦ヒ偽造アリ錯誤アルモ之レヲ原由トシテ再審ヲ求ルコトヲ許スヘカラス而テ裁判ノ公正ヲ證スヘキ記錄ハ常ニ其ノ用ニ供スヘキモノナレトモ裁判ノ材料タルヘキ記錄ハ判事ノ公判廷ニ於テ取調ヘタルモノ、ミ其ノ用ニ供シタルモノトスヘキナリ

此ノ偽造又ハ錯誤ヲ證スルノ用ニ供スル公正證書ハ既ニ原裁判所ニ差出シ判事ノ判定ニ供シタルモノニアラサルコトヲ要スルカ

井上正一氏ノ所説

或問此ノ偽造又ハ錯誤ヲ證スルノ用ニ供スル公正證書ハ既ニ原裁判所ニ提出シ判事ノ判決ニ供シタルモノニアラサルコトヲ要スルカ余嘗テ之レニ答テ既ニ判事ノ判決ニ供シタルモノハ判事之レヲ取調ヘタル上判決シタルナレハ此ノ同一證書ヲ以テ其ノ判決ヲ攻擊スルコトヲ許スヘカラスト曰ヘリ後退テ考ルニ再審ハ非常ノ途トハ云ヘ明文外ニ之レカ制限ヲ設ルハ其ノ當ヲ得サレハ茲ニ前説ヲ改メ既ニ原裁判所ニ提出シタルト否トニ拘ラサルモノトス井上正一氏曰ク「本號ニ付キ一ノ注意ヲ惹ク可キハ訴訟記錄ニ偽造又ハ錯誤アルヿヲ證明ス可キ公正證書ハ原裁判所カ既ニ取調ヘタルモノニ係ル場合ニ於テハ此公正證書アルノミノ故ヲ以テ再審ノ訴ヲ為スヿヲ得サルヤ否ヤノ問題是ナリ余ハ將ニ斷言セントス苟クモ公正證書ニ依リ訴訟記錄

ニ僞造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキハ其公正證書ハ曾テ原裁判所カ之ヲ取調ヘタルト否トニ關セス常ニ再審ノ訴ヲ爲スヲ得ヘシト何者原裁判所カ既ニ取調ヘタリト云フト雖モ或ハ之レカ精密ノ調査ヲ遺漏シタルヤ知ル可カラス詮スル所原判決ノ材料ト爲リタル訴訟記錄ニ僞造又ハ錯誤アルコヲ證明スレハ卽チ足ルヲ以テナリ」ト[義解七七九丁以下]允當ナリ

第六原由

第六原由○刑事ノ判決民事ノ判決ニ憑據シタル場合ニ於テ民事ノ判決廢棄若クハ破毀セラレタルトキハ刑事ノ判決ハ其ノ憑據ヲ失ヒ隨テ錯誤ヲ免カレサレハ之レヲ以テ再審ノ原由トシタリ例ヘハ女子ノ婚姻ナリヤ否ヤヲ決スル判決所有權ニ關スル刑決ノ類ハ判事ノ判決ノ憑據ノ爲ルヘキモノナレハ之レニ憑テ刑事ノ判決ヲ爲シタル後民事ノ判決廢棄又ハ破毀セラレタルトキハ必ス再審ヲ許スヘキナリ

此ノ原由

此ノ原由ハ新法ノ創設ニ係リ一見能ク其ノ理ニ適セルカ如クナレト

ノ失當

モ深ク之レヲ吟味スルトキハ其ノ失當ヲ發見スヘシ左ニ數例ヲ揭テ此ノ点ヲ明カニセム

例ヘハ山林盜伐事件ニ付キ民事裁判所被告人ノ伐採シタル山林ハ乙ノ所有ナリト判決シ刑事裁判所此ノ判決ニ憑テ甲ニ對シ山林盜伐ノ刑ヲ言渡シタル後其ノ山林ヲ乙ノ所有ナリトスル民事裁判所ノ判決廢棄又ハ破毀セラレ甲ノ所有ニ屬スルモノト確定シタルトキハ甲ニ對シテ山林盜伐ノ刑ヲ言渡シタル判決其ノ當ヲ失スルコト固ヨリ明カナリト雖モ此ノ如キハ再審ノ原由ニアラスシテ非常上告ノ原由ナリ何トナレハ被告人ノ所有ニ屬スル山林ハ被告人之レヲ盜伐セムト欲スルモ能ハサレハ再審ヲ待タスシテ直ニ無罪ノ言渡ヲ爲サヽルヘカラサレハナリ

又タ例ヘハ民事裁判所乙ハ丙ノ妻ナリト判決シ刑事裁判所之レニ憑テ甲ト乙ト私通シタルハ有夫姦ナリト判決シ之レニ刑ヲ適用シタル

後民事裁判所ノ判決廢棄又ハ破毀セラレ乙ト丙トノ間ニ婚姻成立セス又ハ餘人ノ妻ナリト決セラレタルトキハ刑事裁判所ノ判決ハ必ス之レヲ更正セサルヘカラス然レトモ人ノ妻ニアラサル女トハ有夫姦罪ヲ犯サムトスルモ能ハス又タ丙ノ妻ニアラサル女トハ丙ニ對スル有夫姦罪ヲ犯サムトスルモ能ハサレハ此ノ場合ニ於テハ再審ヲ待タスシテ甲、乙ニ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ為サヽルヘカラス

或ハ曰ハム刑事裁判所ハ民事ノ判決ニ拘束セラルヽコトナシト是レ余カ再三論駁シタル所ニシテ今別ニ之レヲ論スルノ要ナシト雖モ右ノ二例ニ關シテ茲ニ一言ヲ補フヘシ即チ假ニ本條ノ規定ニ從ヒ再審ヲ為スモノトセムカ再審ヲ為スヘキ刑事裁判所ハ右第一例ノ場合ニ於テ民事裁判所ノ判決ニ反シ其ノ山林ハ甲ノ有ニアラスト決スルヲ得ルカ又タ第二例ノ場合ニ於テ民事裁判所ノ判決ニ反シ乙ヲ丙ノ妻ナリト決スルヲ得ルカ所有權ハ一ニ歸スヘク甲乙兩者間ニ在テ同時ニ甲乙兩者ニ專屬スルヲ得ス又タ女子ハ有夫ニアラサレハ必ス無夫ナリ一人ノ妻タル以上ハ餘人ノ妻ニアラス同時ニ有夫タリ無夫タリ二人以上ノ妻タルコト能ハサレハ刑事裁判所ハ必ス民事裁判所ノ判決ニ基テ裁判ヲ下サヽルヘカラス然ラハ則チ之レヲ再審スルノ要何レニアルカ上告裁判所ヲシテ直ニ判決セシムルノ簡易ナルニ如カサルナリ而テ之レヲ判決スルニハ民事裁判所ノ判決ヲ以テ確定シタル事實ヲ刑事裁判所ノ判決ニ掲載シアルモノト看做シ直ニ無罪ノ言渡ヲ為スヘキナリ

○民事訴訟法ハ「原告若クハ被告カ同一ノ事件ニ付テノ判決ニシテ現ニ確定ト為リタルモノヲ發見シ其判決カ不服ヲ申立テラレタル判決ト牴觸スルトキ」ヲ以テ再審ノ一原由トシタリ刑事ニ在テハ民事ト異テ二个ノ判決互ニ牴觸スルコト實際上稀ナリト雖モ亦タ全ク之レナキニアラス而テ他ニ此ノ場合ニ處スヘキノ法ナケレハ立法者宜ク此

ノ原由ヲ補足スヘキナリ

○

第三百二條　再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者左ノ如シ

第一　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事

第二　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事

第三　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル上告裁判所ノ檢事但司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス可シ

第四　刑ノ言渡ヲ受ケタル者

第五　刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタルトキハ其親屬

本條ハ再審ノ訴ヲ爲スヲ得ル人ヲ定メタリ

再審ノ訴ヲ爲シ得ル人　○本條第一號乃至第三號ニ記載シタル者ハ孰レモ檢事ナリ檢事ハ啻タニ刑事原告人タルノミナラス亦タ公益ヲ維持スヘキノ任アル者ナレハ再審ノ訴ヲ爲スノ權アルハ固ヨリ當然ナリ而テ啻タニ檢事ノミナラス司法大臣モ亦タ公益上上告裁判所ノ檢事ヲ以テ此ノ訴ヲ爲スヲ得是レ一人ト雖モ明白ナル誤判ノ下ニ屈在スル者ナカラムコトヲ欲シテナリ

第四號及ヒ第五號ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ其ノ親屬再審ノ訴ヲ爲スヲ得ルコトヲ定メタリ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ直接ニ利害ノ關係ヲ有スレハ再審ヲ求ルヲ得ルハ勿論再審ハ名譽回復ノ爲メ死者ノ爲メニモ亦タ求ルヲ得ルモノナレハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタルトキハ其ノ親屬之レヲ爲スヲ得本條ニ明文ナシト雖モ刑ノ言渡ヲ受ケタル者無能力ナルトキハ法律上ノ代理人ニ之レヲ爲スコトヲ許サヽルヘカラス

禁錮以上　○禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シテ刑ノ執行ヲ受ケサルト

ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シテ刑ノ執行ヲ受ケサルトキハ自ラ再審ノ訴ヲ爲スヲ得サルカ

キハ自ラ再審ノ訴ヲ爲スヲ得サルカ井上氏ハ之レヲ許サスト說ケリ[述義九三二號]余之レニ服セス法律ハ通常上訴ト雖モ被告人ノ現ニ捕ニ就クコト要セス況ヤ明白ナル錯誤ヲ匡正セムカ爲メノ再審ハ現ニ捕ニ就カスト雖モ十分之レヲ求ルヲ得、ヘシ國家ハ罪人ヲ逮捕シ得サルカ爲メ其ノ錯誤ヲ謝正セスシテ可ナルノ理ナキナリ

受刑者遺囑ヲ以テ再審ノ訴ヲ爲スヲ得ルカ

○受刑者遺囑ヲ以テ再審ノ訴ヲ爲スヲ得ルカ井上正一氏之レニ答テ曰ヘリ「若シ親屬ナキ場合ニ於テ受刑者死ニ瀕シ再審ノ訴ヲ爲サン事ヲ他人ニ委任シテ死去シタル時ハ立法上受託者ニ之ヲ爲スヿヲ許ス可キ乎否ヤ余ハ稍々法理上允當ナラサルカ如シト雖𪜈本人ノ利益ノ爲メ之ヲ許スノ穩當ナルヘシト思惟スルナリ」ト[義解七八二丁]之レヲ許スノ法ヲ設ルモ可ナリ然レトモ余ハ檢事ニ再審ノ訴ヲ爲スノ權ヲ與ヘタル以上ハ特ニ之レヲ設ルノ必要ヲ感セス

○

第三百三條　再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラス何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

再審ヲ求得ヘキ時期

本條ハ再審ヲ求ルヲ得ルノ期ヲ定メタリ

○再審ノ訴ハ刑ノ未タ消滅セサルニ當テ之レヲ爲ストキハ其ノ益アレトモ刑ノ既ニ消滅シタル後ハ之レヲ爲スモ其ノ效ナキニ似タリ然レトモ罪ナキ者罪人ノ汚名ヲ被リ輕キ罪ヲ犯シタル者重罪人ノ汚名ヲ被ルハ名譽上ノ損害少ナカラサレハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラス之レヲ爲スヲ得ト定メタリ即チ再審ノ訴ハ無期ナリ

○

第三百四條　再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ原判決ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢事ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢事及ヒ控訴裁判所ノ檢事自ラ再審ノ訴ヲ爲サントスルトキハ前項ノ手續ニ從ヒ其書類ヲ差出ス可シ

再審ノ訴ヲ爲スノ手續

本條ハ再審ノ訴ヲ爲スノ手續ヲ定メタリ

○再審ニ付テハ上告裁判所口頭辯論ヲ用ルコトナク唯タ書類ニ依テ之レヲ裁判スレハ再審ノ訴ヲ爲サムトスル者ハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添ヘ之レヲ原裁判所ニ差出サヽルヘカラス原裁判所ノ檢事ハ其ノ書類ヲ調査シ意見書ヲ添ヘ之レヲ上告裁判所檢事ニ差出スヘク又タ原裁判所又ハ控訴裁判所ノ檢事自ラ再審ノ訴ヲ爲ストキハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添ヘ之レヲ上告裁判所檢事ニ差出スヘキナリ

第三項ニ「前項ノ手續ニ從ヒ其書類ヲ差出ス可シ」トアルカ故ニ檢事再審ノ訴ヲ爲ストキハ意見書ヲ差出スヘク趣意書ヲ差出スニ及ハスト曰フ者アリ非ナリ前項ノ手續ニ從フトハ上告裁判所檢事ニ差出スヘキノ手續ヲ指スモノニシテ檢事ヨリスルトキモ亦タ必ス趣意書ヲ差出サヽルヘカラス

○

第三百五條　上告裁判所ニ於テハ檢事ノ請求ニ因リ速ニ受命判事一名ヲシテ其取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ

再審ニ關スル上告裁判所ノ手續其ノ一

本條ハ再審ニ關スル上告裁判所ノ訴訟手續ヲ定メタリ

○上告裁判所ハ五名若クハ七名ノ組合判事ヲ以テ再審ノ訴ヲ審判スヘキモノナレハ一名ノ受命判事ヲシテ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム而テ再審ハ最モ急速ヲ要スルカ故ニ檢事ヨリ書類ヲ受取リタルトキハ速ニ受命判事ヲシテ取調ヲ爲サシムルノ手續ヲ行ハサルヘカラス

本條ニ「檢事ノ請求ニ因リ……」トアルカ故ニ其ノ請求ニ因リ受命判事ヲシテ取調ヲ爲サシムルモノヽ如シト雖モ決テ然ルニアラス上告裁判所ハ再審ノ訴ニ因テ既ニ訴訟ヲ受理シタレハ必ス受命判事ヲシテ

取調ヲ爲サシムヘク之レカ爲メ特ニ檢事ノ請求アルコトヲ要セス故ニ本條ハ之レヲ改メ「檢事ヨリ書類ヲ受取リタルトキハ速ニ……」トスルヲ可トス

○

第三百六條　上告裁判所ニ於テハ受命判事ノ報告及ヒ檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス可シ

本條モ亦タ上告裁判所ノ訴訟手續ヲ定メタリ

其ノ二

○上告裁判所ハ再審ノ原由アリヤ否ヤヲ取調ヘ其ノ原由アリト認メタルトキ原判決ヲ破毀シテ之レカ他ノ裁判所ノ審理ニ付スルニ止マレハ口頭辯論ヲ用ルコトナク唯タ受命判事ノ報告ト檢事ノ意見トヲ聽キ之レヲ判決スヘキナリ

本條ニ明文ナシト雖モ再審ノ訴ハ書類ニ依テ審判スルモノナレハ檢事ハ意見書ヲ差出スヘク審判席ニ列スヘカラス

○

第三百七條　上告裁判所ニ於テ再審ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ原判決ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲ス可キコトヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可シ

其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ

本條ハ再審ノ訴ノ判決ニ關スル法則ヲ定メタリ

再審ノ原由アリト認メタルトキノ裁判法

○本條ニ據ルニ上告裁判所再審ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ原判決ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲スヘキコトヲ言渡シ其ノ訴事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移スヘキナリ蓋シ再審ノ訴ハ上告裁判所ニ向テ本案ノ再審ヲ求ルニアラス他ノ事實裁判所ヲシテ再審セシメラレムコトヲ求ルモノナレハ上告裁判所ハ唯タ再審ノ

原由アリヤ否ヤヲ取調ヘ其ノ原由アリト認メタルトキハ原判決ヲ破毀シテ其ノ事件ヲ他ノ裁判所ニ送付スルニ止マリ自ラ再審ヲ為スモノニアラス

又タ再審ハ事實ノ再審ナレハ其ノ原由アリト認メタルトキハ啻タニ公訴事件ノミナラス私訴事件モ亦タ共ニ之レヲ再審セシメサルヘカラス是レ公訴、私訴ハ同一事件ニ原由スレハ此ノ共通ノ原由タル事實ニ錯誤アルトキハ其ノ結果タル公訴、私訴ニ付キ再審ヲ為スノ要アレハナリ然レトモ是レ唯タ刑事裁判所併テ私訴ノ判決ヲ為シタル場合ノミ若シ民事裁判所別ニ私訴ニ付キ判決シタルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ再審ノ訴ヲ為シタルトキニアラサレハ原判決ヲ破毀スルヲ得ス

又タ本條ニ單ニ原判決ヲ破毀シトアレトモ第三百一條第二ノ原由アルトキハ必ス雙方ノ判決ヲ破毀セサルヘカラス同一事件ニ付キ共犯ニアラスシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アルトキ之レヲ理由トシテ再審ヲ許スハ是レ其ノ中ノ一方ノ者ハ無罪ナルヘシトノ推測アルカ故ナレハ雙方ノ判決ヲ破毀シテ更ニ之レヲ審理スルニアラサレハ其ノ目的ヲ達スルヲ得ス

再審ノ原由アリト認メタルトキ直ニ原裁判ヲ破毀スルハ果テ適理ナルカ

○上告裁判所再審ノ原由アルコトヲ認メタルトキ直ニ原判決ヲ破毀スルコトニ付テハ議論アリ余嘗テ治罪法釋義ニ左ノ如ク論シタリ

大審院ハ第四百三十九條(新第三百一條)ニ定メタル再審ノ原由アリヤ否ヤヲ取調ルニ止マリ其ノ原由アリト認メタルトキト雖モ未タ之レヲ以テ直ニ原裁判錯誤ニ出テタルモノトスルヲ得ス是レ大審院ハ唯タ書類ニ依テ判決シ實際ニ就テ取調ヘタルモノニアラサレハナリ故ニ再審ノ原由アリト認メタルトキハ他ノ事實裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ再審セシメ原裁判ニ錯誤アルトキハ之レヲ破毀シ錯誤ナキトキハ之レヲ存スルヲ以テ適當トス

治罪法草案第五百九十一條ニ曰ク「何レノ場合ニ於テモ大審院ニテ再審ノ原由アルヿヲ認メタルトキハ公訴及ヒ私訴ノ言渡ニ付キ再審ヲ爲スヘキヿヲ言渡シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ更ニ被告人トシテ原裁判所ニ移ス可シ……」ト同第五百九十二條ニ曰ク「再審事件ノ送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ破毀ニ係ル事件ノ送付ヲ受ケタル場合ト同一ノ規則ニ循ヒ之ヲ裁判ス可シ……」ト同第五百九十三條ニ曰ク「刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ一名又ハ數名無罪タルノ證アルトキハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ一名又ハ數名有罪タルノ證アルトキハ法律ニ循ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ……」ト同第五百九十四條ニ曰ク「再審ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ハ再審ノ裁判言渡書ニ訴訟書類ヲ添ヘ大審院ニ之ヲ差出ス可シ○大審院ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル規則ニ從ヒ公廷ニテ檢事長其他訴訟關係人ノ請求ニ依リ判決ヲ爲ス可シ」ト同第五百九十五條ニ曰ク「大審院ニ於テハ再審ノ裁判ニ依リ被告人ノ一名又ハ數名無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ其言渡ヲ受ケタル者ニ管スル原裁判言渡ヲ破毀シ再審ノ裁判言渡ヲ執行ス可キノ言渡ヲ爲ス可シ」ト同第五百九十六條ニ曰ク「再審ノ裁判ニ依リ被告人ノ一名又ハ數名原裁判言渡ヨリ輕キ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ其言渡ヲ受ケタル者ニ管スル原裁判言渡ヲ破毀シ第五百四十三條ニ循ヒ刑期ヲ減シ再審ノ裁判言渡ヲ執行ス可キノ言渡ヲ爲ス可シ○再審ノ裁判ニテ言渡シタル刑原裁判ニテ言渡シタル刑ヨリ重ク又ハ同一ナル時ハ原裁判言渡ヲ執行ス可キノ言渡ヲ爲ス可シ」ト即チ草案ノ趣旨トスル所ハ大審院再審ノ原由アルコトヲ認メタルトキ直ニ原裁判ヲ破毀スルコトナク其ノ事件ヲ他ノ裁判所ニ移シ之レヲ審判セシメ原裁判言渡ニ錯誤アルトキ始テ之レヲ破毀スルニ在テ能ク其ノ當ヲ得タリ因テ此ノ点ニ付テハ立法者草案ノ如ク改正セラレムコトヲ希望

ス[illegible]

余ハ新法ニ此ノ改正ヲ見サルコトヲ遺憾トス然ルニ井上氏ハ「然レトモ既ニ再審ノ原由アルトキハ概シテ原裁判ニ錯誤アルコトヲ推定シ得ヘキノミナラス然ラサルモ亦多少匡正スヘキ瑕瑾アルヤ疑ナシ且ツ若シ此說ノ如クセハ其送付ヲ受ケタル裁判所ハ共同等ナル原裁判所ノ判決ヲ破毀若クハ認可シ得ルニ至リ裁判所ノ階級ヲ紊亂スルニ至ルヘシ……」ト說ケリ實ニ再審ノ原由アルトキハ概シテ原判決ニ錯誤アルコトヲ推定シ得ヘシト雖モ未タ以テ錯誤アリト確定スルヲ得ス「裁判所ノ階級ヲ紊亂スルニ至ル可シ……」ト曰ヘルニ至テハ治罪法草案ヲ熟讀スルコトナク輕卒ニ立テタル說ニシテ全ク取ルニ足ラス草案ハ事件ノ送付ヲ受ケタル裁判所ヲシテ原判決ヲ破毀シ又ハ認可セシムルニアラス之レヲシテ事實ヲ審理シ更ニ裁判セシメ大審院新舊二個ノ判決ヲ比較シテ或ハ原判決ヲ破毀シ又ハ認可スルモノナリ

決テ裁判所ノ階級ヲ紊亂スルノ譏ヲ受クヘキモノニアラス

送付ヲ受ケタル裁判所ノ訴訟手續

○第二項ハ事件ノ送付ヲ受ケタル裁判所ノ訴訟手續及ヒ其ノ裁判法ヲ定メタリ卽チ其ノ裁判所ハ事件ヲ再審スヘキモノナレハ通常事件ヲ受理シタル場合ト同ク毫モ拘ハルコトナク審判スヘシト雖モ再審ハ元ト刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲メニ爲スモノナレハ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ニ原判決ヨリモ不利益ナル判決ヲ爲スヲ得ス法ニ此ノ明文ナキハ立法者治罪法ヲ制定スルニ際リ前揭草案ヲ刪除シナカラ茲ニ此ノ制限ヲ設ルコトヲ遺レ且ツ新法ヲ制定スルニ及テ此ノ不備ヲ覺ラサリシナリ

○

第三百八條　死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ上告裁判所ニテ再審ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク原判決ヲ破毀ス可シ[illegible]

死者ノ爲メニ爲シタル再審ノ訴ヲ理由アリト認メタルトキハ如何スルカ

本條ハ死者ノ爲メニ再審ノ原由アリト認メタルトキハ如何スヘキヤヲ定メタリ

○生者ノ爲メト死者ノ爲メトヲ問ハス上告裁判所再審ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ必ス原判決ヲ破毀セサルヘカラス而テ生者ノ事件ハ破毀後之レヲ再審スルヲ得レトモ死者ノ事件ハ之レヲ再審スルニ由ナケレハ此ノ場合ニ於テハ其ノ事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク原判決ヲ破毀スルニ止マル

此ノ規定ハ他ニ其ノ適用ヲ求ムヘキ場合ナキカ

本條ハ單リ死者ノ親屬再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ就テ規定シタリト雖モ之レヲ他三个ノ場合ニモ亦タ適用セサルヘカラス

一

一、檢事ハ公益ヲ維保スヘキ者ナレハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタルト否トニ拘ラス再審ノ原由アリト思料シタルトキハ其ノ訴ヲ爲スヘキカ故ニ檢事此ノ訴ヲ爲シタルトキ亦タ本條ノ規定ヲ適用セサルヘカラス

二

二、刑ノ言渡ヲ受ケタル者再審ノ訴ヲ爲シ當時生存シタリト雖モ上告裁判所ノ裁判前死去シタルトキハ本條ノ規定ニ從ハサルヘカラス是レ刑ノ言渡ヲ受ケタル者再審ノ訴訟中死去シタリト雖モ再審ハ其ノ生死ニ拘ルコトナケレハ上告裁判所其ノ原由アルヤ否ヤヲ取調ヘ之レアリト認メタルトキハ原判決ヲ破毀セサルヲ得サレハナリ

三

三、第三百一條第二ノ原由アリトシテ一方ノ者再審ノ訴ヲ爲シ上告裁判所其ノ原由アリト認メタル場合ニ於テ他ノ一方ノ者既ニ死去シタルトキハ本條ノ規定ニ從ハサルヘカラス何トナレハ第三百七條ノ下ニ一言シタルカ如ク上告裁判所ハ雙方ノ判決ヲ破毀スヘキモノナレハナリ

井上氏ノ所論及ヒ其ノ當否

○井上氏ハ公訴權若クハ刑ノ消滅シタル後再審ノ訴ヲ爲シ又ハ再審ノ訴ヲ爲シタル後公訴權若クハ刑消滅シタルトキ及ヒ第三百條第一ノ原由ニ基キ再審ノ訴ヲ爲シタルトキハ單ニ原判決ヲ破毀スルニ止

ムヘキモノナリト說ケリ〔述義九四一號〕公訴權消滅シタルトキノ一事ハ氏ノ說ニ從フヘシト雖モ餘ハ其ノ當ヲ得ス刑既ニ消滅シタリト雖モ公訴權消滅セサル間ハ必ス其ノ裁判ヲ爲サヽルヘカラス罪ヲ犯シタル者ハ刑ヲ受ルニ因テ罪人タルコトヲ免ルヽモノニアラサレハ其ノ事件ヲ事實裁判所ニ送付シ之レヲシテ審判セシムヘキナリ又タ第三百條第一ノ原由アリト雖モ必スシモ其ノ者無罪ナルニアラス氏ハ既ニ同條ヲ說クニ當リ「此確證アリト雖モ被告人ハ必スシモ無罪人トハイフヘカラス或ハ殺人罪ノ未遂犯ニ止メ若クハ他人ヲ殺害シタルモ知ルヘカラス」ト〔述義九二六號〕曰ヘルカ如キモノナレハ此ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ必ス其ノ事件ヲ事實裁判所ニ送付セサルヘカラス

本條ノ場合ニ於テ私訴ハ如何スヘキカ

○本條ニ單ニ「原判決ヲ破毀ス可シ」トアリテ公訴ト私訴トヲ明カニセス余嘗テ私訴權ハ被告人ノ死去ニ因テ消滅スレトモ通常民事ノ訴權ハ之レニ因テ消滅スルコトナケレハ私訴ハ之レヲ民事裁判所ニ送付シ民事ノ責任ノ有無ヲ審判セシムルモノト解セサルヘカラスト說キタリ退テ一考スルニ私訴權消滅シタル以上ハ上告裁判所其ノ事件ヲ民事裁判所ニ送付スルヲ得ス被害者要償取回ノ訴ヲ爲サムト欲サハ之レヲ爲スヘシ裁判所之レニ干涉スルニ及ハサルナリ

○

第三百九條　再審ノ判決ニ因リ無罪ノ言渡アリタルトキ又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリタルトキハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其判決ヲ揭示ス可シ

再審ニ因ル名譽回復法

本條ハ再審ニ因ル名譽回復ノ法ヲ定メタリ

○再審ノ判決ニ因テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキト刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタルニ因テ其ノ事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク止タ原判決ヲ破毀シタルトキトハ其ノ趣多少異レリト雖モ嘗テ刑ノ言渡ヲ

受ケタル者ノ無罪タルニ至テハ一ナレハ必ス其ノ名譽ヲ回復スルノ處置ヲ施サヽルヘカラス本條ニ其ノ判決ヲ掲示スヘシトアルハ即チ是レナリ茲ニ謂ユル掲示ハ上告裁判所又ハ再審ヲ爲シタル裁判所ノ掲示板ニ判決書ヲ貼付スルニ由テ之レヲ爲スモノナルヘケレハ余ハ之レヲ以テ其ノ名譽ヲ回復スルニ十分ナル處置ト認ルヲ得ス故ナク人ヲ刑シタルハ國家ノ誤ナレハ費用ヲ吝マス全國ノ各新聞紙ニ三日以上此判決ノ要旨ヲ掲テ之レヲ公告スルモノト定メラレムコトヲ希望ス此ノ如クシテ始テ多少刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ名譽ヲ回復スルノ效アルヘシ又タ國家此ノ錯誤ヲ致シタルノ罪ヲ謝スルヲ得ヘキナリ

本條ハ再審ノ判決ニ因リ無罪ノ言渡アリタルトキノ法ヲ定テ其ノ判決ニ因リ免訴ヲ言渡アリタルトキヲ法ニ定メス欠典ナリ蓋シ無罪ヲ言渡ト免訴ノ言渡トノ間多少差異ナキニアラサレトモ被告人ヲ刑スヘカラサルノ點ニ至テハ一ナレハ免訴ノ言渡アリタルトキモ亦タ其ノ名譽ヲ回復スルノ處置ヲ施サヽルヘカラス

第七編　大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

○本編凡テ七條大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續ヲ定メタリ構成法第五十條ニ據ルニ大審院ハ上告及ヒ抗告ニ付キ裁判權ヲ有スルノミナラス亦タ刑法第二編第一章及ヒ第二章ニ揭ケタル重罪竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノヽ豫審及ヒ裁判ヲ爲スノ權限ヲ有ス此ノ特別ノ權限ニ付テハ普通ノ訴訟手續ニ從フヲ得サルモノアレハ特ニ本編ヲ設テ之レヲ規定シタリ

○

第三百十條　裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル大審院ノ特別權限ニ屬スル犯罪ニ付テハ檢事總長其捜査ヲ爲ス可シ」地方裁判所區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官モ亦其犯罪ニ付キ捜査ヲ爲シ檢事總長ニ報告ス可シ

本條ハ構成法第五十條第二號ニ記載シタル罪ノ捜査ヲ爲スヘキ人ヲ定メタリ

大審院ノ特別權限ニ屬スル犯罪捜査ノ權ハ何人ニ屬スルカ

○捜査ハ檢事ノ職務ナリ管轄檢事即チ起訴ノ權アル者之レヲ爲スヲ以テ正則トス此ノ特種ノ罪ニ付テハ大審院ヲ以テ豫審又ハ公判ノ管轄ナリト定メタレハ大審院檢事總長之レヲ爲スヘキコト固ヨリ通例ナリト雖モ捜査ハ間斷ナク各地ニ於テ之レヲ爲スニアラサレハ其ノ效ナケレハ之レヲ全國唯一ノ檢事總長ニ委ネ餘ノ檢事ノ之レニ干涉スルコトヲ禁スルニ於テハ往々時機ヲ失スルノ恐アリ故ニ地方裁判所區裁判所ノ檢事ハ固ヨリ各司法警察官モ亦タ其ノ罪ニ付キ捜査スヘシト定メタリ控訴院檢事ヲ載セスト雖モ井上氏ノ謂ユル輕ヲ擧テ重ヲ示シタルモノニシテ之レニ捜査ノ權アルコトハ固ヨリ論ナキナリ

右ノ如ク罪ノ捜査ハ獨リ檢事總長ニ限ラスト雖モ起訴ハ檢事總長ノ專權ナレハ捜査ノ結果ハ必ス之レヲ檢事總長ニ報告セサルヘカラス

〇

第三百十一條　前條ニ記載シタル犯罪ノ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ地方裁判所區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官ハ第百四十四條及ヒ第百四十七條第一項ノ規定ニ從ヒ豫審處分ヲ爲スコトヲ得但豫審判事ニ通知スルコトヲ要セス

大審院ノ特別權限ニ屬スル現行罪ノ處分法　其ノ一

本條ハ現行罪ノ處分法ヲ定メタリ

〇現行罪構成法第五十條第二號ニ記載シタルモノナルトキハ大審院檢事總長ヲ除キ他ノ檢事、司法警察官之レニ付キ處分ヲ行フヲ得サルヲ以テ通例トス然レトモ事急速ヲ要スルトキハ第百四十四條ノ規定ニ從ヒ地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ニ又タ第百四十七條第一項ノ規定ニ從ヒ司法警察官ニ豫審處分ヲ行フコトヲ許サヽルヘカラス若シ然ラスシテ檢事總長ニアラサレハ之レヲ行フヲ得ストセムカ往々罪證ヲ湮滅セシメ罪人ヲ逃脫セシムルニ至ルヘシ是レ本條ノ設アル所以ナリ

檢事第百四十四條ノ規定ニ從ヒ現行罪事件ニ付キ急速ヲ要スル處分ヲ行フトキハ可及的速ニ正則ニ復サムカ爲メ其ノ旨ヲ豫審判事ニ通知スルヲ以テ通例トスレトモ此ノ特別ノ罪ニ付テハ此ノ通知ヲ要セス是レ通常豫審判事ハ此ノ種ノ罪ニ付キ管轄權ヲ有セサレハ之レヲ通知スルモ其ノ益ナク且ツ此ノ種ノ罪ニ關スル豫審判事ハ常設ノモノニアラサレハ之レニ通知セムトスルモ能ハサレハナリ

〇

第三百十二條　前條ノ場合ニ於テハ地方裁判所檢事ヨリ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ檢事總長ニ送致ス可シ

本條モ亦タ現行罪ニ關スル處分法ヲ定メタリ

其ノ二

〇前條ノ規定ニ從ヒ檢事又ハ司法警察官急速ヲ要スル處分ヲ行ヒタルトキハ地方裁判所檢事證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之レヲ管轄檢

事卽チ檢事總長ニ送致セサルヘカラス是レ固ヨリ當然ノ順序デリ故ニ區裁判所檢事又ハ司法警察官處分ヲ行ヒタルトキハ之レヲ地方裁判所檢事ニ送致セサルヘカラス

○

第三百十三條　檢事總長ハ何レノ場合ニ於テモ其事件大審院ノ特別權限ニ屬シ且起訴ス可キモノト認メタルトキハ豫審判事ヲ命ス可キコトヲ大審院長ニ請求ス可シ

本條ハ檢事總長ノ起訴ニ關スル法則ヲ定メタリ

檢事總長起訴ノ方法

○檢事總長自ラ罪アルコトヲ認知シ又ハ之レアリト思料シテ捜査シタルト他ノ檢事又ハ司法警察官ヨリ其ノ報告ヲ受ケタルトニ拘ラス又タ現行罪ノ場合ト否トヲ問ハス其ノ事件大審院ノ特別權限ニ屬シ且ツ起訴スヘキモノト認メタルトキハ之レヲ起訴シ若シ其ノ事件大審院ノ特別權限ニ屬セス又ハ起訴スヘカラサルモノト認メタルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ之レヲ處分ス唯タ本條ニ付キ特ニ注意ヲ要スルハ檢事總長豫審判事ヲ命スヘキコトヲ大審院長ニ請求スルノ一事ナリ是レ此ノ特別事件ニ付テハ大審院判事ヲシテ之レカ豫審ヲ爲サシムルヲ以テ正則トスレトモ便宜上各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルヲ得ルカ故ニ「構成法第五十五條」豫審判事ヲ常設スルコトナク起訴アリタル每ニ之レヲ命スルモノトシタルナラム然レトモ余ハ此ノ如ク每事豫審判事ヲ命スルノ必要ヲ感セス大審院ニ常ニ一名又ハ數名ノ豫審判事ヲ常設シ便宜上他ノ裁判所ノ判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムヘキトキハ亦タ其ノ裁判所ノ常設豫審判事ヲシテ之レヲ爲サシムルヲ以テ足レリトス

磯部氏ノ所論及ヒ其ノ當否

磯部氏曰ク「或ハ起訴ノ初メ豫審判事ヲ命スルハ不公平ノ疑ナキヲ保セスト云フ者アレトモ余ハ全ク然リト云フヲ得ス何トナレハ豫審ト公判トハ純然タル別個ノ手續ニシテ豫審ニ無罪ノ決定ヲ爲スモ公判ニ於テ有罪ノ判決ヲ言渡スモ未タ知ル可カラス

〔著者曰ク此ノ引例ハ不當モ亦タ太甚シ宜ク豫審ニ於テ公判ニ付スルノ決定ヲ爲スモ公判ニ於テ無罪ノ判決ヲ言渡スモ未タ知ル可カラスト改テ看ルヘシ〕且ツ豫審判事ハ公判ノ裁判ニ與カラサルヲ以テ起訴ノ初之レヲ命スルモ世人ノ疑惑ヲ起シ判決ノ信用ヲ害スルコトアラサレハナリ」ト〔講義下卷二七五丁以下〕非ナリ各事件毎ニ豫審判事ヲ命スルハ各事件毎ニ公判判事ヲ命スルカ如ク其ノ弊大ナラス而モ豫メ之レヲ命スルノ公正無私ナルニ如カス且ツ豫メ之レヲ命スルニ付キ太甚キ不都合アルトキハ各事件ニ付キ之レヲ命スル亦タ可ナリト雖モ前述ノ如ク豫審判事ヲ常設スルヲ得サルノ理ナキカ故ニ余ハ之レヲ常設スルモノト改正セラレムコトヲ希望ス

○

第三百十四條　大審院長ヨリ命ヲ受ケタル豫審判事ハ豫審ヲ爲ハ[illegible]シタル上ニテ他ニ取調ヲ要スルコトナシト思料シタルトキハ訴訟記錄ニ意見ヲ付シ大審院ニ差出ス可シ

豫審判事ノ權限

本條ハ豫審判事ノ權限ヲ定メタリ

○次條ニ據ルニ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ付テハ大審院其ノ事件ヲ公判ニ付スヘキヤ否ヤヲ決ス〔此ノ規定ノ當否ハ次條ノ下ニ之レヲ論スヘシ〕故ニ此ノ種ノ事件ニ付テハ豫審判事ハ第二百六十四條第二百九十八條ニ規定シタル受命判事ト同ク豫審中ノ處分ヲ行フニ付キ全權ヲ有スレトモ終結ノ決定ヲ爲スヲ得ス又タ其ノ訴訟記錄ニ意見ヲ付シ之レヲ大審院ニ差出スニ止マル此ノ規定ハ新法ノ組織ニ應スルモノナリト雖モ次條ノ規定其ノ當ヲ得サレハ次條ト共ニ之レヲ改正セサルヘカラス

○

第三百十五條　大審院ニ於テハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ先ツ其事件ヲ公判ニ付ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

其事件地方裁判所又ハ區裁判所ノ權限ニ屬スルモノト決定シタルトキハ管轄裁判所ヲ指定シ其事件ヲ送致ス可シ若シ特別裁判所ノ權限ニ屬スルモノト認メタルトキハ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ

又第百六十五條ニ記載シタル場合ニ於テハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

本條ハ豫審終結ニ關スル法則ヲ定メタリ

豫審終結ノ方法

○大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ付テハ豫審判事ヲシテ終結ノ決定ヲ爲サシムルコトナク大審院檢事總長ノ意見ヲ聽テ之レヲ爲ス此ノ變法ヲ設ケタルハ果テ何ノ理ニ基クカ磯部氏曰ク「然レトモ是レ亦其理由ナキニ非ス他ナシ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ノ如キハ或ハ犯罪ノ性質ノ故ヲ以テ或ハ犯人ノ身分ノ故ヲ以テ已ニ通常ノ手續ニ從テ之レヲ裁判スルコトヲ許サヽルモノナリ且ツ七人ノ判事ニ依リテ合議裁判ヲ爲ス可キ重大ノ事件ヲ一個ノ豫審判事ノ決定ニ任スルハ取調ノ丁重ヲ要スル當初ノ目的ニ背クモノト云ハサル可カラス是レ其豫審判事ニ決定ノ權ヲ許サヽル所以ナリ」ト（講義下卷二七八丁）

此ノ特則ニ關スル磯部氏ノ所解

他ニ之レカ理由タルヘキモノヲ發見セサレハ之レヲ以テ立法ノ理由ナリトセムカ大ニ誤レルモノト謂ハサルヘカラス左ニ其ノ所以ヲ辨セム

立法上此ノ特則ノ當否如何

立法者刑事訴訟法ヲ制定スルニ方リ小心敬畏其ノ意ヲ用テ防制スヘキハ失出ニアラスシテ失入ナリ從テ刑事訴訟法ニ於テ最モ忌ム所ノモノハ有罪ノ豫斷ナリ其ノ之レヲ忌ムノ極遂ニ文字ニ及ヒ佛蘭西ノ如キハコナートゥル「共犯人」ノ文字ヲ忌ミ悦テコヌソートル「同連人」ノ文、字ヲ用ユ我カ國治罪法ヲ改テ刑事訴訟法トシタルノ意亦タ此レニ外ナラサルヘシ今大審院ニ於テ七人ノ組合判事公判ノ大則ニ背キ公判廷外ニ於テ訴訟記錄ヲ調査シ其ノ事件ヲ公判ニ付スヘキヤ否ヤヲ決

定スルトキハ腦裡豫斷ヲ抱クノ恐アリ十分訴訟記錄ヲ取調ヘ其ノ事件ヲ公判ニ付スヘシト決定シタル判事ハ公判廷ニ出テヽ被告人ノ供述、辨護人ノ辨論ヲ聽クモ心志既ニ澄徹ナラス始テ物ヲ容ルヽカ如クナルヲ得ス通常事件ニ關シテスラ判事其ノ事件ノ豫審終結ニ干與シタルトキハ裁判ノ公平ヲ維持セムカ爲メ之レヲ其ノ職務ノ執行ヨリ除斥スルニアラスヤ然ルニ此ノ重要ナル事件ニ付キ公判判事ニ公判大則ニ反シテ公判前訴訟記錄ヲ調査スヘシ刑事訴訟法ノ最モ忌ム所ノ有罪ノ豫斷ヲ爲スヘシト命スルハ何ソヤ磯部氏ハ事ヲ丁重ニスルモノナリト曰フ何ソ誤レルノ太甚キヤ且ツ一名ノ豫審判事ヲシテ終結ノ決定ヲ爲サシムルモ決テ磯部氏ノ憂ルカ如キ弊アルコトナシ何トナレハ誤テ公判ニ付スルノ決定ヲ爲スモ公判判事ハ毫モ之レニ拘束セラルヽコトナク其ノ實ニ隨テ無罪、免訴ノ言渡ヲ爲スヘケレハナリ或ハ曰ハム磯部氏ノ憂ル所ハ誤テ被告事件ヲ公判ニ付スルニ在ラスシテ誤テ免訴ノ決定ヲ爲スニ在リト氏ハ久ク檢事ノ職ニ在テ多少裁判所ノ風俗ニ化セラレタルヤモ知ルヘカラサレトモ此ノ如キ説ヲ唱ルコトナキハ余ノ深ク信スル所ナリ

石波氏ノ所論

石波氏ハ本案ノ規定ニ從ヒ決定ヲ爲シタル判事ハ其ノ公判ニ干與スヘカラスト説ケリ曰ク此点ニ關シテ最モ議論アルハ大審院ノ特別事件是ナリ刑事訴訟法第三百十五條ニ曰ク「大審院ニ於テハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ先ツ其事件ヲ公判ニ付ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ」ト此故ニ大審院ノ特別事件ニ付キテハ豫審判事先ツ之カ豫審ヲナシ而シテ之カ終結則チ公判ニ付ス可キヤ否ヤノ決定ハ大審院ニ於テ七人ノ判事合議シヲ以テ爲スモノナリトス於是乎大審院ニ於テ其事件ヲ公判ニ付ス可キヤ否ヤヲ決定シタル判事ハ同時ニ其事件ニ付キテ公判々事トナルコトヲ得ルヤ否ヤノ議論ヲ生ス今夫レ雙者ノ爭論スル所ハ單ニ第三百十五條ノ解釋如何ニ存セリ第一説ノ論者ハ曰ク本條ニ先

ツ其事件ヲ公判ニ付ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シトアルハ豫審ノ終結ト毫末モ差異アルコトナシ只夫レ一方ハ手續完了ノ方面ヨリ立言シテ豫審ノ終結ト云ヒ一方ハ事件ヲ公判ニ移付スルノ方面ヨリ立言シテ事件ヲ公判ニ付ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シト云フニアリテ畢竟其觀察ノ方面ヲ異ニスルニ依リテ其名稱ヲ異ニスルニ止リ其實體其自身ニ至リテハ二者ノ間ニ區別アルコトナシ故ニ大審院ノ特別事件ニ付キ公判ニ付ス可キコトヲ決定シタル判事ハ同一ノ事件ニ付キ除斥ノ原因アルモノナレハ再ヒ公判々事トシテ其事件ヲ裁判スルコトヲ得サルナリト第二説ノ論者ハ曰ク第一説タル大ニ誤レリ元來豫審終結ト云ヘハ刑事訴訟法第百六十一條ヨリ第百七十五條ノ間ニ規定セラレタルコトノミニ止マル可キハ成文ヲ繙カハ直チニ之ヲ會得スルコトヲ得可シ故ニ第三百十五條ノ場合ハ豫審ノ終結ニアラサレハ除斥ノ原因アルコトナケレハ從テ決定ヲ與ヘタル判事ハ尚ホ公判々事トシテ同一事件ヲ裁判スルコトヲ得ト雙者ノ主張スル所各々一理ナキニアラスト雖モ余ハ寧ロ第一説ニ贊同スルモノナリ然ルニ我大審院ハ彼ノ有名ナル湖南事件ニ於テ第二説ヲ維持シタリ余ハ未タ其理由アルヲ知ル能ハサルナリ」ト「刑事訴訟法一〇四丁以下」然リ然レトモ本條第一項ニ「大審院ニ於テ……」トアリ又タ「先ツ其事件ヲ公判ニ付ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ」トアレハ法意第二説ニ在リト解セサルヘカラス

○

第三百十六條　前數條ニ於テ特ニ規定シタルモノヲ除ク外豫審、公判ノ手續ハ第三編第四編ノ規定ヲ準用ス

大審院ノ特別權限ニ屬スル一般ノ訴訟手續

本條ハ特定ノ手續ヲ除クノ外總テ普通ノ手續ニ從フヘキコトヲ定メタルモノニシテ別ニ説明ヲ要セス

第八編　裁判執行復權及ヒ特赦

○本編總テ三章第一章ハ裁判執行ニ關スル法則ヲ定メ第二章ハ復權ニ關スル法則ヲ定メ第三章ハ特赦ニ關スル法則ヲ定メタリ

第一章　裁判執行

○本章凡テ七條裁判執行ニ關スル法則ヲ定メタリ
裁判執行ハ刑ノ言渡ノ執行ト無罪、免訴ノ言渡ノ執行トヲ包含スト雖モ無罪、免訴ノ言渡ノ執行ハ勾留ヲ受ケタル被告人ノ身體ノ拘束ヲ釋クニ止マレハ別ニ之レヲ本章ニ定メス專ラ主刑、附加刑ノ執行ニ關スル法則ヲ定メタリ

第三百十七條　刑ノ執行ハ判決確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑ノ執行時期

本條ハ何時ヨリ刑ヲ執行スヘキヤヲ定メタルモノニシテ刑法第五十條ト全ク其ノ趣ヲ同フス
㊀判決ハ其ノ言渡ノ日ヨリ效力ヲ生スレトモ亦タ上訴ナルモノアリテ之レカ停止ノ條件タリ又ハ解除ノ條件タルカ(上訴解除ノ條件タルトキハ直ニ判決ヲ執行スヘキナレトモ刑ノ言渡ニ限リ之レヲ停止スル所以ハ第二百七十二條ノ下ニ詳ナリ)故ニ其ノ判決確定動カスヘカラサルニ至リタル後ニアラサレハ之レヲ執行スルコトヲ許サス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第三百十八條　死刑ノ言渡確定シタルトキハ檢事ヨリ速ニ訴訟記錄ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

司法大臣ヨリ死刑ヲ執行ス可キ命令アリタルトキハ三日內ニ其執行ヲ爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル法則

本條ハ死刑ノ執行ニ關スル法則ヲ定メタリ

○特赦ハ犯人刑ノ執行ニ因テ悛改ノ情現ハレタルトキ行フヘキモノナリ然レトモ死者復タ生クヘカラサレハ死刑ヲ執行シタル後ハ特赦ヲ與ルモ及ハス且ツ非常上告又ハ再審ノ原由ヲ後日ニ發見スルコトアルモ其ノ效ナケレハ死刑ノ執行ハ刑法第十三條ニ司法大臣ノ命令アルニアラサレハ之レヲ行フヲ得スト定メタリ故ニ死刑ノ言渡確定シタルトキハ檢事速ニ訴訟記錄ヲ司法大臣ニ差出シ司法大臣ハ訴訟記錄ニ就テ特赦ヲ奏請スヘキノ情況アリヤ否ヤ非常上告若クハ再審ノ原由アリヤ否ヤヲ調査シ之レナシト認メタルトキ其ノ裁判所ノ檢事ニ執行ヲ命ス

檢事司法大臣ヨリ死刑ヲ執行スヘキノ命令ヲ受ケタルトキハ三日內ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ然レトモ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者懷胎ノ女子ナルトキハ之レヲ執行スルヲ得ス刑法第十五條ニ曰ク「死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス」ト故ニ此ノ塲合ニ於テハ分娩ヨリ一百日ヲ經タル後更ニ司法大臣ノ命令ヲ受ルニアラサレハ之レヲ執行スヘカラス

○

第三百十九條　死刑ヲ除ク外刑ノ言渡確定シタルトキハ直チニ之レヲ執行ス可シ

體刑ノ言渡ヲ受ケ其執行ヲ遁レタル者ニ對シ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ效ヲ有ス其欠席判決ノ塲合ニ於テ發シタル者亦同シ

本條ハ死刑ヲ除キ餘ノ刑ハ何時ヨリ之レヲ執行スヘキヤ又タ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ如何ナル效力ヲ有スルヤヲ定メタリ

死刑以外ノ刑ノ執行

○死刑ノ言渡確定スルモ直ニ之レヲ執行セサルハ前條ノ下ニ開説シタルカ如ク特別ノ理由アルカ故ナリ餘ノ刑ハ其ノ執行ヲ停止スヘキノ理由ナケレハ刑ノ言渡確定シタルトキハ直ニ之レヲ執行ス然レトモ罰金、科料ノ刑ニ付テハ特例アリ罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシメ〔刑法第二十七條〕科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日內ニ納完セシム〔同第三十條〕

○曩ニ第二百五十九條ノ下ニ一言シタルカ如ク裁判所一ノ判決ヲ以テ二以上ノ罪ヲ判決シ訴訟關係人重キ罪ニ付キ上訴シ輕キ罪ニ關スル判決確定シタルトキハ直ニ輕キ刑ヲ執行セサルヘカラス我カ國現時ノ慣行之レニ反スルハ全ク本條第一項ノ規定ニ背クモノニシテ為メニ往々被告人ニ不利益ヲ生スルコトアリ或ハ日ハム重キ罪ニ付キ判決確定セサル間ハ被告人ヲ拘置監ニ置クヘキモノナレハ輕キ刑ヲ執行セムト欲スルモ能ハスト非ナリ既決囚人ニ對シテ公訴起リ之レヲ拘置監ニ移シタルトキハ如何其ノ日數ヲ刑期ニ算入セサルカ決テ此ノ如キ不正ノ處置ヲ施スコトナカルヘシ然ラハ輕キ刑ノ言渡確定シタルトキ亦タ之レニ準シテ處分スルニ何ノ妨カアラム言渡確定後ノ日數ハ必ス之レヲ刑期ニ算入スヘキナリ

檢事ノ發シタル逮捕狀ノ効力

○第二項ハ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ勾留狀ト同一ナル效力ヲ有スルコトヲ定メタリ此ノ規定ハ其ノ當ヲ得サルノミナラス亦タ法文突出シ頗ル體裁ヲ失スルモノヽ如シ宜ク之レヲ別條トシテ左ノ如ク改正シ第二百二十一條ノ次ニ置クヘキナリ

體刑ノ言渡ヲ受ケタル者其ノ執行ヲ遁レタルトキ又ハ欠席判決ニ因リ體裁ヲ言渡シ之レニ對スル通常上訴ノ期間經過シタルトキハ刑ノ言渡ヲ為シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所ノ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事逮捕狀ヲ發スヘシ

逮捕狀ハ勾留狀ト同ク之レヲ執行スヘシ

右ノ如ク逮捕狀ノ執行ヲ勾留狀ノ執行ト同一ニスヘシト定メムコトヲ希フハ是レ逮捕狀ト勾留狀トハ全ク其ノ效力ヲ異ニシ一ハ被告人ヲ未決勾留セムカ為メニシテ一ハ刑ノ執行ヲ遁レタル者ヲ逮捕セムカ為メナレハ之レヲシテ同一ナラシムルヲ得ス同一ナラシムルヲ得ルハ止タ執行ノ一事ナレハナリ

○

第三百二十條　刑ノ執行ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ之ヲ為ス可シ

罰金科料、訴訟費用及ヒ沒收物品、追徵金ハ檢事ノ命令ニ因リ之ヲ徵收ス可シ

破壞又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢事之ヲ處分ス可シ

刑ノ執行及ヒ訴訟費用ノ徵收法

本條ハ刑ノ執行法及ヒ訴訟費用ノ徵收法ヲ定メタリ

○刑ノ執行ニ付キ指揮、命令ノ權ヲ有スル者ハ檢事ナレハ刑ノ執行ハ檢事之レヲ指揮命令ス

體刑ハ司獄官吏檢事ノ指揮ヲ受テ之レヲ執行シ罰金、科料、追徵金ハ裁判所書記檢事ノ命令ニ因テ之レヲ徵收ス(明治十四年司法省丁第二十五號達)又タ訴訟費用ハ刑ニアラスト雖モ國庫ノ為メニ徵收スヘキモノナレハ裁判所書記檢事ノ命令ニ因テ之レヲ徵收ス

又タ沒收物中破壞スヘク廢棄スヘキモノハ之レヲ存スルトキハ世安ヲ害スルカ故ニ檢事自ラ之レヲ監視シテ破壞若クハ廢棄ノ處分ヲ了スヘキナリ

○

第三百二十一條　死刑ノ執行ニ付テハ裁判所書記其始末書ヲ作リ刑ノ執行規則ニ從ヒ立會ヲ為シタル官吏ト共ニ署名捺印ス可シ

本條ハ死刑ノ執行ニ關スル特別法ヲ定メタリ

死刑執行方法

○死刑ノ執行ニ立會フヘキ官吏ハ檢事、裁判所書記及ヒ典獄ナリ故ニ始末書ニハ此ノ三種ノ官吏署名捺印スヘシ

刑法附則ニ死刑執行ニ關スル細則ヲ定メタリ曰ク

第一條　死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑塲ニ立會ヒ典獄ヨリ四人ニ死刑ヲ執行ス可キヿヲ告示シタル後押丁ヲシテ之ヲ決行セシム但時限ハ午前十時前トス

第二條　死刑ヲ行フ時ハ刑塲ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑塲ニ入ルヿヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條　死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作リ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條　左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヿヲ禁ス　元始祭　孝明天皇祭　紀元節　春季皇靈祭　仁孝天皇祭　神武天皇祭　六月大祓　秋季皇靈祭　神宮神嘗祭　天長節　後桃園天皇祭　新嘗祭　孝格天皇祭　十二月大祓

第八條　死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公示ス可シ　刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前　犯罪ノ地　犯人住居ノ地

○

第三百二十二條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ決定ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

本條ハ執行裁判ニ關スル法則ヲ定メタリ

執行裁判

○疑義ノ申立ハ言渡ニ不明ノ点アルトキ爲スモノナリ即チ判決ニ刑

ノ種類又ハ分量ヲ明定セサルトキ等ニ於テ為ス所ノ申立ナリ又タ異議ノ申立ハ疑義ノ申立ニ於ケルカ如ク多クハ判決ニ不明ノ点アルトキ為スモノナリト雖モ其ノ言渡ニ付キ疑義ノ申立ヲ為スコトナク刑ノ執行誤レリトシテ其ノ執行ニ對シ異議ヲ申立ルモノナリ此ノ申立ハ疑義ト異議トニ論ナク刑ノ言渡ヲ為シタル裁判所ヲシテ之レヲ判決セシム是レ判決ノ解釋ハ現ニ之レヲ言渡シタル裁判所ヲシテ為サシムルヲ以テ最モ適當トスレハナリ

本條ニ汎ク疑義ノ申立トアレトモ其ノ執行ニ關係ナキ疑義ノ申立ハ之レヲ為スコトヲ許サス唯タ此ノ實益アリテ始テ之レヲ申立ルコトヲ得ルノミ

此ノ裁判ニ對スル上訴

舊法ハ疑義及ヒ異議ノ申立ニ對スル判決ニ對シテハ上訴ヲ許サヽリシト雖モ新法ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者之レニ對シテ抗告スルヲ得ト定メタリ是レ事ヲ愼ムニ於テ寔ニ能ク其ノ當ヲ得タルモノナリ

本條ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノミ疑義又ハ異議ノ申立ヲ為スヲ得ト定メタルニ付テハ余舊法ノ下ニ在テ左ノ如ク論シタリ曰ク

法律ニ「刑ノ言渡ヲ受ケタル者……」トアルカ故ニ疑義ノ申立モ亦タ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニアラサレハ之レヲ為スヲ得サルニ似タリ然レトモ是レ唯タ編纂其ノ當ヲ失スルノミ疑義ノ申立ハ檢察官ニアラサレハ之レヲ為スヲ得ス抑モ疑義ノ申立ハ言渡ノ不明ノ点ニ對シテ為ス所ノモノニシテ異議ノ申立ハ直接ニ言渡ニ對スルコトナシ執行ニ對シテ不服ヲ唱ルモノナレハ言渡ニ不明ノ点アルトキハ執行官疑義ノ申立ヲ為スヘク刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ執行其ノ當ヲ得サルトキ始テ不服ヲ唱フヘク豫メ疑義ノ申立ヲ為スノ要ナシ若シ豫メ言渡ノ不明ヲ領知セムト欲サハ之レヲ執行官ニ質スヘキノミ故ニ疑義ノ申立ハ檢察官ノ為スヘキモノナリ

余ハ何故ニ立法者新法ヲ制定スルニ際リ此ノ改正ヲ施サヽリシカ之

レヲ解スルヲ得ス

○或問治罪法ハ其ノ第四百六十七條ニ「刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ認定スル爲メ前ニ其罪ヲ認メタル裁判所ニ送致ス可シ○裁判所ニ於テ本犯ナルヿヲ認定スルヿ能ハサル時ハ事實參考ノ爲メ曾テ其事件ニ干預シタル裁判官檢察官書記又ハ原被ノ證人ヲ呼出スヿヲ得」ト定メタリ新法ニ之レニ類スル規定ナシ刑ノ言渡ヲ受ケタル者人違ノ申立ヲ爲シタルトキハ如何ニ之レヲ處分スヘキカ曰ク人違ノ申立ハ異議ノ申立ノ一種アレハ今日ニ在テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所此ノ申立ヲ受理決定スルモノト解セサルヘカラス然レトモ人違ノ申立ハ他ノ異議ノ申立ト異テ事實ニ渉ルカ故ニ余ハ上告裁判所ヲシテ之レヲ決定セシムルコトナク常ニ其ノ罪ヲ認メタル裁判所ヲシテ之レヲ決定セシメ且ツ疑アルトキハ證言等ニ依テ十分之レヲ取調ルヲ得セシメラレムコト希望ス換言スレハ新法ニ治罪法第四百六十七條ノ法則ヲ廢除シタルハ其ノ當ヲ失スルモノナリ横田國臣氏ハ治罪法第四百六十七條ヲ論シテ「第三ノ場合「人違ノ申立」ハ第二ノ場合「異議ノ申立」ニ包含シタルヲ以テ不用ノ箇條トスルモ不可ナキニ似タリ唯第四百六十七條第二項ノ規則ハ少々有用ナリ然レ𪜈假令此規則ナシト雖モ嘗テ其本犯ヲ認知シタル者ヲ呼出スヿヲ得サルニ非ス畢竟注意ノ法文ニ過キス」ト曰ヘリ立法者ノ此ノ規定ヲ削除シタルハ或ハ此ノ如キノ理由ニ出テタリトセムカ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ト罪ヲ認メタル裁判所トノ間ニ差異アルヲ知ラサルモノト謂フヘシ

○

第三百二十三條　賠償及ヒ訴訟關係人ニ辨濟ス可キ訴訟費用ニ付キ其判決ノ裁行ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ

賠償及ヒ

本條ハ賠償及ヒ訴訟費用「國庫ニ納ムヘキモノヲ除ク」ニ關スル判決ノ

訴訟費用ノ執行法

執行ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フヘキコトヲ定メタルモノニシテ事理ノ當然別ニ説明スヘキモノナシ

〇

第二章　復權

復權

〇本章凡テ七條復權ニ關スル法則ヲ定メタリ

復權トハ「刑法第六十三條」公權ヲ剝奪セラレタル者將來其ノ公權ヲ復有スルヲ謂フ之レヲ許スノ權ハ全ク天皇ニ屬ス憲法第十六條ニ曰ク「天皇ハ大赦、特赦、減刑及ヒ復權ヲ命ス」ト卽チ是レナリ

〇

第三百二十四條　復權ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期間經過シタル後刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法大臣ニ之ヲ爲ス可シ

復權ノ願書ハ現ニ住スル地ノ地方裁判所檢事ニ之ヲ差出ス可シ

復權ノ願ヲ爲シ得ル人及ヒ其ノ手續

本條ハ復權ノ願ヲ爲スヲ得ル人及ヒ其ノ手續ヲ定メタリ

〇刑法第六十三條ニ曰ク「公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得〇主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ」ト故ニ復權ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者法定ノ期間ヲ經過シタル後之レヲ司法大臣ニ願フヘキモノトス司法大臣ニ願フヘシト定メタルハ其ノ行政處分ニ屬シ司法大臣ノ上奏スヘキモノナレハナリ而テ復權ノ願ヲ爲スニ付テハ其ノ願書ヲ願人ノ現ニ住スル地ノ地方裁判所檢事ニ差出サヽルヘカラス是レ此ノ檢事ハ第三百二十六條ノ規定ニ從ヒ願人ノ品行其ノ他必要ナル取調ヲ爲スノ任アレハナ

リ

○

第三百二十五條　復權ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

第一　判決ノ正本

第二　主刑ノ滿期、特赦ト爲リ又ハ時效ノ成就シタルコトヲ證明スル書類

第三　假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタル證書

第四　賠償及ヒ訴訟費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免カレタル證書

第五　過去、現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

本條ハ復權ノ願書ニ添ユヘキ書類ヲ定メタリ

復權ノ願ニ添付スヘキ書類

○本條ニ列記シタル五種ノ書類ハ孰レモ復權ノ願ヲ許否スルニ必要ナルモノナレハ必ス之レヲ其ノ願書ニ添エサルヘカラス

一　一、復權ヲ願ハムトスル者ハ如何ナル罪ヲ犯シタルカ爲メニ公權ヲ剝奪セラレタリトノ事實ヲ證明セサルヘカラス故ニ判決ノ正本ヲ必要トス

二　二、復權ノ願ハ主刑ヲ終リタルヨリ五年ヲ經過シタル後ニアラサレハ之レヲ爲スヲ得サレハ此ノ願ヲ爲サムトスル者ハ主刑ノ終リタルコトヲ證明セサルヘカラス主刑ノ終ルニ三个ノ原由アリ曰ク言渡サレタル期間刑ニ服シタルコト曰ク特赦ニ因テ刑ヲ免セラレタルコト曰ク時效ニ因テ刑ヲ免カレタルコト是レナリ故ニ復權ノ願ヲ爲ス者ハ必ス此ノ三者中其ノ一ヲ證明スヘキ書類ヲ差出サヽルヘカラス或ハ時效ニ因テ刑ヲ免カレタル者ハ法律ニ服從セサルモノナレハ之レニ復權ヲ與フヘカラスト曰フ者アレトモ刑罰ヲ畏レ其ノ執行ヲ遁レタル者ヲシテ遷善ノ希望ヲ絶タシムヘキニアラス且ツ一旦刑ノ執行ヲ遁レタル者ト雖モ前非ヲ悔ヒ其ノ行跡ヲ改ルニ於テハ之レヲシテ公

權ヲ回復セシムルモ敢テ理ニ戾リ世ヲ害スルコトナキナリ

本條ニ特赦ヲ掲テ大赦ヲ掲ケサルハ大赦ヲ受ケタル者ハ自ラ復權ヲ得レハナリ

三

三、刑法第四十一條ニ曰ク「監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假リニ監視ヲ免スルヿヲ得」同第五十三條ニ曰ク「重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得○無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ」ト是レニ由テ之レヲ觀ルニ假出獄及ヒ免監視ハ犯人ノ行狀方正ニシテ悛改ノ情狀アルトキ爲ス所ノ處分ナレハ復權ノ願ヲ爲ス者ハ其ノ證書ヲ添ヘ其ノ品行ノ方正ナルコトヲ證スヘシ然レトモ之レヲ以テ復權ノ願ニ欠クヘカラサルモノトシタルハ酷ニ失ス何トナレハ假出獄免監視ハ行政處分ニ屬スレハ犯人悛改ノ情狀アルモ之レヲ與ヘサルコトアルヘケレハナリ因テ思フニ此ノ種ノ證書ハ單ニ事實參考ノ用ニ供スルモノニシテ復權ニ欠クヘカラサル條件ニアラサルヘシ此ノ事ハ時效ニ因テ刑ヲ免カレタルコトヲ證明スヘシト命スルニ由テ之レヲ知ルニ足ル是レ刑ヲ免カレタル者ハ刑ノ執行ヲ受ケサレハ亦タ假出獄ヲ得ルコト能ハサレハナリ

本條ニ假出獄ヲ掲テ免幽閉ヲ遺シタルハ不備ナリ刑法第五十三條第三項ニ「流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス」トアリ其ノ第二十一條ニ「無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ政行ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ……有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ」トアリテ假出獄ト免幽閉トハ大ニ其ノ性質ヲ同フスレハ其ノ證アルトキハ之レヲ差出サシムルヲ可トス

四

四、復權ハ其ノ罪ニ因テ生シタル一切ノ義務ヲ免カレタル者ニアラサレハ之レヲ與ヘス故ニ國家ニ對シテ其ノ義務ヲ免カレタルコトヲ證

明スヘキノミナラス亦タ被害者ニ對シテ其ノ義務ヲ免カレ國庫ニ對シテ之レヲ免カレタルコトヲ證明セサルヘカラス

五

五、復權ハ品行方正ニシテ其ノ者公權ヲ復有スルモ世ニ害ナキトキニ於テスヘキモノナレハ之レヲ願ハムトスル者ハ過去、現在ノ住所及ヒ過去、現在ノ生計ヲ記載スル書類ヲ添ヘ其ノ品行ヲ明カニシ且ツ官ノ調査ニ便セサルヘカラス茲ニ謂ユル過去ハ罪ヲ犯シタルヨリ後ヲ指スコト明カナリ

○

第三百二十六條　檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ為シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ檢事長ニ差出ス可シ

復權ノ願ニ付キ地方裁判所檢事ノ為スヘキ事柄

本條ハ復權ノ願ニ付キ地方裁判所檢事ノ為スヘキ事ヲ定メタリ

○檢事復權ノ願書ヲ受取リタルトキハ可及的速ニ願人ノ品行其ノ他必要ナル取調ヲ為シ本人ノ差出シタル書類ニ自已ノ意見書ヲ添ヘ之レヲ管轄控訴院檢事長ニ差出スヘキナリ此ノ如ク第一ニ地方裁判所檢事ヲシテ取調ヲ為サシムルハ是レ願人ノ現ニ住スル地ノ檢事ハ品行其ノ他ノ取調ヲ為スニ最モ適當ナレハナリ

○

第三百二十七條　檢事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ為シ復權ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

之レニ關スル控訴院檢事ノ為スヘキ事柄

本條ハ控訴院檢事長ノ為スヘキ事ヲ定メタリ

○控訴院檢事長地方裁判所檢事ヨリ復權ニ關スル書類ヲ受取リタルトキハ一應之レヲ取調ヘ地方裁判所檢事ノ取調未タ十分ナラサル所アラハ其ノ取調ヲ為シ然ル後之レニ意見書ヲ添ヘ司法大臣ニ差出スヘシ此ノ如ク檢事長ヲシテ更ニ取調ヲ為シ且ツ意見ヲ付セシムルハ公權ヲ剝奪セラレタル者ニ其ノ公權ヲ復與シ公事上良民ト伍スルコトヲ許スハ大事ナレハ未タ之レヲ復セサルニ方テ愼テ錯誤ヲ避ケム

カ爲メナリ

○

第三百二十八條　司法大臣ハ復權ノ願ニ關スル書類ヲ檢閲シ之ニ意見書ヲ添ヘ速ニ上奏ス可シ

之レニ關スル司法大臣ノ爲スヘキ事柄

本條ハ司法大臣ノ爲スヘキ事ヲ定メタリ

○司法大臣控訴院檢事長ヨリ復權ニ關スル書類ヲ受取リタルトキハ之レヲ檢閲シ意見書ヲ添エ速ニ上奏スヘシ

治罪法第四百七十四條ニ「司法卿ハ復權ノ願ニ關スル書類ヲ檢閲シ其願ヲ允許ス可キ者ト認メタル時ハ速ニ上奏ス可シ」トアリタリ當時余ハ復權ノ願ニ要スル條件具備セサルトキハ上奏スルニ及ハサレトモ其ノ條件ヲ具備シタル願ニ付キ之レヲ允許スヘキヤ否ヤヲ豫斷スルハ天皇ノ大權ヲ侵スモノナリト論シタリ新法ハ之レヲ改メ必ス上奏スヘシト定メタリ此ノ如キハ復權ヲ願フノ條件ヲ具備セサルトキ尙ホ上奏スルニ至ルノ嫌アリト雖モ司法大臣之レニ意見ヲ付スレハ亦タ決テ事ニ害ナシ

○

第三百二十九條　勅裁ニ因リ復權ノ願ヲ却下シタルトキハ司法大臣ヨリ其旨ヲ檢事長ニ通知シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル地方裁判所檢事ニ通知ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期間ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

更ニ復權ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規定ニ從フ

復權願却下後ノ手續

本條ハ復權ノ願却下セラレタル後ノ手續ヲ定メタリ

○勅裁ニ因テ復權ノ願却下セラレタルトキハ司法大臣ハ其ノ旨ヲ控訴院檢事長ニ通知シ檢事長ハ地方裁判所檢事ニ通知ス是レ前ニ復權ノ願ヲ差出シタルトキノ順序ヲ追フモノナリ又タ本條ニ明文ナシト

雖モ地方裁判所檢事ハ必ス其ノ旨ヲ願人ニ通知セサルヘカラス

復權ノ再願

復權ノ願ハ一旦却下セラレタル後更ニ之レヲ爲スヲ得サルモノニアラス其ノ却下セラレタルハ願人ニ其ノ願ヲ爲スノ權利ナキカ故ナルカ又ハ其ノ行跡之レヲ許スニ足ラサルカ故ナレハ他日復權ノ願ヲ爲スノ權利ヲ得又ハ其ノ品行方正ナルコトヲ證シ得ルニ至リタルトキハ復タ其ノ權利ヲ回復セラルヽコトナキニアラス然レトモ復權ノ願ヲ却下セラレタル者ハ直ニ再願スルヲ得ス少クトモ刑法第六十三條ニ定メタル期間ノ半即チ二年六月ヲ經過シタル後ニアラサレハ之レヲ許サス

○二年六月ヲ經過シタル後ニアラサレハ復權ヲ再願スルヲ得サルノ点ニ付テハ曩ニ左ノ如ク論シタリ

然レトモ此ノ期限ニ付テハ少シク論アリ即チ願人ニ其ノ復權ノ願ヲ爲スノ權アレトモ未タ復權スヘカラサルモノトシテ之レヲ却下シタルトキハ刑法第六十三條ニ定メタル期間ノ半ヲ經過スルニアラサレハ更ニ其ノ願ヲ爲スヲ得スト定ルコト允當ナリト雖モ願人ニ復權ヲ願フノ權利未タ生セサルカ爲メニ之レヲ却下シタルトキハ更ニ其ノ願ヲ爲スニ付キ期間ヲ設ルハ其ノ當ヲ得ス是レ第一ノ場合ニ於テハ願人ノ行狀復權ノ願ヲ許スニ足ラサルモノナレハ其レヨリ刑法ニ定メタル期間ノ半ヲ經過シタル後ニアラサレハ其ノ行狀復權ヲ許スニ足ルヤ否ヤヲ視ルニ足ラスト雖モ第二ノ場合ニ於テハ唯タ法律ニ定メタル條件ヲ履行セサリシニ過キサレハ願人其ノ條件ヲ履行スルニ於テハ直ニ其ノ願ヲ爲スモ之レヲ禁スルノ理ナケレナリ

實際上復權ヲ願フニ要スル條件ヲ具備セスシテ之レヲ願フ者ナカルヘシト雖モ道理上右ノ區別ヲ正フスヘキナリ

再願ノ手

○第三項ハ更ニ復權ヲ願フニ付テモ亦タ初テ之レヲ願ヒタルトキノ

續

手續ニ從フヘキコトヲ定メタルモノニシテ別ニ説明ヲ須ヒス

○

第三百三十條　復權ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ヨリ其裁可狀ヲ檢事長ニ送致シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル地方裁判所檢事ニ送致ス可シ

檢事ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付ス可シ

又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之レヲ判決ノ原本ニ記入ス可シ

復權裁可ノ手續

本條ハ復權ノ裁可アリタルトキノ手續ヲ定メタリ

○復權ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ハ檢事長ニ檢事長ハ地方裁判所檢事ニ其ノ裁可狀ヲ送致シ檢事ハ其ノ謄本ヲ願人ニ下付シ且ツ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ送致ス送致ヲ受ケタル裁判所ハ之レヲ其ノ判決ノ原本ニ記入シテ復權アリタルコトヲ明カニスヘキナリ

○

第三章　特赦

特赦

○本章凡テ四條特赦ニ關スル法則ヲ定メタリ

特赦ハ悛改ノ實效現ハレタル犯人ノ刑ヲ減免スルモノニシテ天皇ノ大權ニ屬ス憲法第十六條ニ曰ク「天皇ハ大赦、特赦、減刑及ヒ復權ヲ命ス」ト憲法ハ特赦ト減刑トヲ別チタリト雖モ減刑モ亦タ特赦ノ一ナレハ固ヨリ本章ノ規定ニ從ハサルヘカラス

○

第三百三十一條　特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ監獄署長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法大臣ニ申立ルコトヲ得

監獄署長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲スㇳキハ檢事ヲ經由ス可シ但檢事ハ意見書ヲ添フ可シ

特赦ノ申立アリタルㇳキハ司法大臣ヨリ其書類ニ意見書ヲ添ヘ上奏ス可シ

特赦ノ願ヲ爲シ得ル人及ヒ其ノ手續

本條ハ特赦ノ願ヲ爲スヲ得ル人及ヒ其ノ手續ヲ定メタリ

○特赦ハ刑ヲ減免スルモノナレハ刑ノ言渡確定シタル後ニアラサレハ之レヲ爲スヲ得ス而テ之レヲ願フヲ得ル者ハ犯人監督ノ任アル檢事及ヒ監獄署長ナリトス本條ニ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事トアレトモ余ハ之レヲ改テ刑ノ執行ヲ爲ス檢事トセラレムコトヲ希望ス是レ刑ノ執行ヲ爲スハ必スシモ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ限ラス而モ特赦ノ願ヲ爲スハ必ス刑ノ執行ヲ爲ス檢事ナルヘケレハナリ

特赦ハ復權ト同シク行政處分ニ屬シ司法大臣ノ上奏スヘキモノナレハ此ノ願ヲ爲サムトスル者ハ犯人ノ情狀ヲ具シテ司法大臣ニ申立テサルヘカラス

檢事ハ刑ノ執行ヲ指揮、命令スル者ナレハ直接ニ司法大臣ニ之レヲ申立ルヲ得レトモ監獄署長ハ檢事ノ指揮、命令ニ因リ刑ヲ執行スル者ナレハ特赦ノ申立ヲ爲スニ付テハ必ス檢事ヲ經由セサルヘカラス檢事其ノ申立ニ意見ヲ付シ之レヲ司法大臣ニ差出ス

司法大臣特赦ノ申立ヲ受ケタルトキハ必ス之レニ意見ヲ付シテ上奏スヘシ

○本條第一項ニ「犯人ノ情狀ヲ具シ……」トアリ特赦ハ犯人悛改シタルノ實效アルトキ行フヘキモノナレハ其ノ情狀トハ刑ノ言渡後ノ情狀ニシテ其ノ以前ノモノニアラス以前ノ情狀ハ判事ノ既ニ酌量シタル所ナレハ之レヲ以テ更ニ特赦ヲ請フノ理由トスヘカラス然レトモ個ハ唯タ正面ノ解釋ナルノミ其ノ實裁判以前ノ情狀ヲ具シテ特赦ヲ請

ナコトアリ即チ判決ニ甚キ錯誤アリテ他ニ之レヲ救フノ方ナキトキ又ハ其ノ犯情極テ輕微ニシテ之レニ法律ノ許ス限リノ減等ヲ與ヘタレトモ仍ホ其ノ刑重キニ過ル場合ニ於テハ特赦ヲ利用スルコトアリ又タ死刑ノ如キハ執行後ノ情狀ヲ具スルコト能ハサレハ必ス其ノ以前ノ情狀ヲ具シテ特赦ヲ請ハサルヘカラス

○

第三百三十二條　司法大臣ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ為スコトヲ得

死刑ヲ除ク外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セス

本條ハ司法大臣ニ特赦ノ申立ヲ為スノ權アルコト及ヒ特赦ノ申立アリタルトキ刑ノ執行ヲ停止スヘキヤ否ヤヲ定メタリ

特赦ニ關スル司法大臣ノ權

○司法大臣ハ刑ノ執行ヲ為ス者ニアラス然レトモ死刑ノ執行ハ之レヲ檢事ニ命スルモノナレハ亦タ之レヲシテ特赦ヲ請フノ權ナカラシメサルヘカラス然レトモ司法大臣ノ請フ所ノ特赦ハ多クハ政略上ノモノニシテ通常ノモノニアラサルヘシ

特赦ノ申立ハ刑ノ執行ヲ停止スルカ

○第二項ハ特赦ノ申立アリト雖モ死刑ヲ除クノ外刑ノ執行ヲ停止セサルコトヲ定メタルモノニシテ事理ノ當然ナリト雖モ之レヲ本條第二項トシタルハ編纂其ノ當ヲ得ス宜ク之レヲ別條トスヘキナリ

○

第三百三十三條　特赦ノ申立却下アリタルトキハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ為シタル裁判所ノ檢事ニ其旨ヲ通知ス可シ

特赦ノ申立却下後ノ手續

本條ハ特赦ノ申立ヲ却下セラレタルトキノ手續ヲ定メタルモノニシテ別ニ説明ヲ要セス

○

第三百三十四條　特赦ノ裁可ナリタルトキハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ為シタル裁判所ノ檢事ニ特赦狀ヲ送致ス可シ此場合ニ

○特赦　第三百三十四條

於テハ第三百三十條ノ規定ニ從フ

同上裁可アリタルトキノ手續

本條ハ特赦ノ裁可ナリタルトキノ手續ヲ定メタルモノニシテ別ニ說明ヲ要セス唯タ其ノ復權ト少シク異ル所ハ典獄式場ヲ設ケ四人ニ之レヲ言渡スノ一事ナリ

附則

附則

○附則ハ第四條ヲ除クノ外新舊法更迭ノ際ニ行ハルヘキ法則ヲ定メタルモノナレハ今日ニ在テ之レヲ諳スルノ必要ナシ又タ第四條ハ別ニ說明ヲ要セサレハ唯タ其ノ法文ヲ掲ルニ止ムヘシ

第一條　此法律施行前ニ受理シタル豫審ノ故障及ヒ其故障ノ判決ニ對スル上告ハ之ヲ受理シタル地方裁判所又ハ大審院ニ於テ抗告トシテ之ヲ裁判ス可シ

第二條　大審院ニ於テ既ニ受理シタル哀訴裁判管轄ヲ定ムル爲訴及ヒ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ治罪法ノ手續ニ依リ大審院之ヲ裁判ス可シ

第三條　既ニ發シタル勾留狀收監狀ハ此法律ニ定メタル勾留狀ノ効ヲ有ス

第四條　此法律ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第五條　此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行シ其日ヨリ治罪法ヲ廢ス

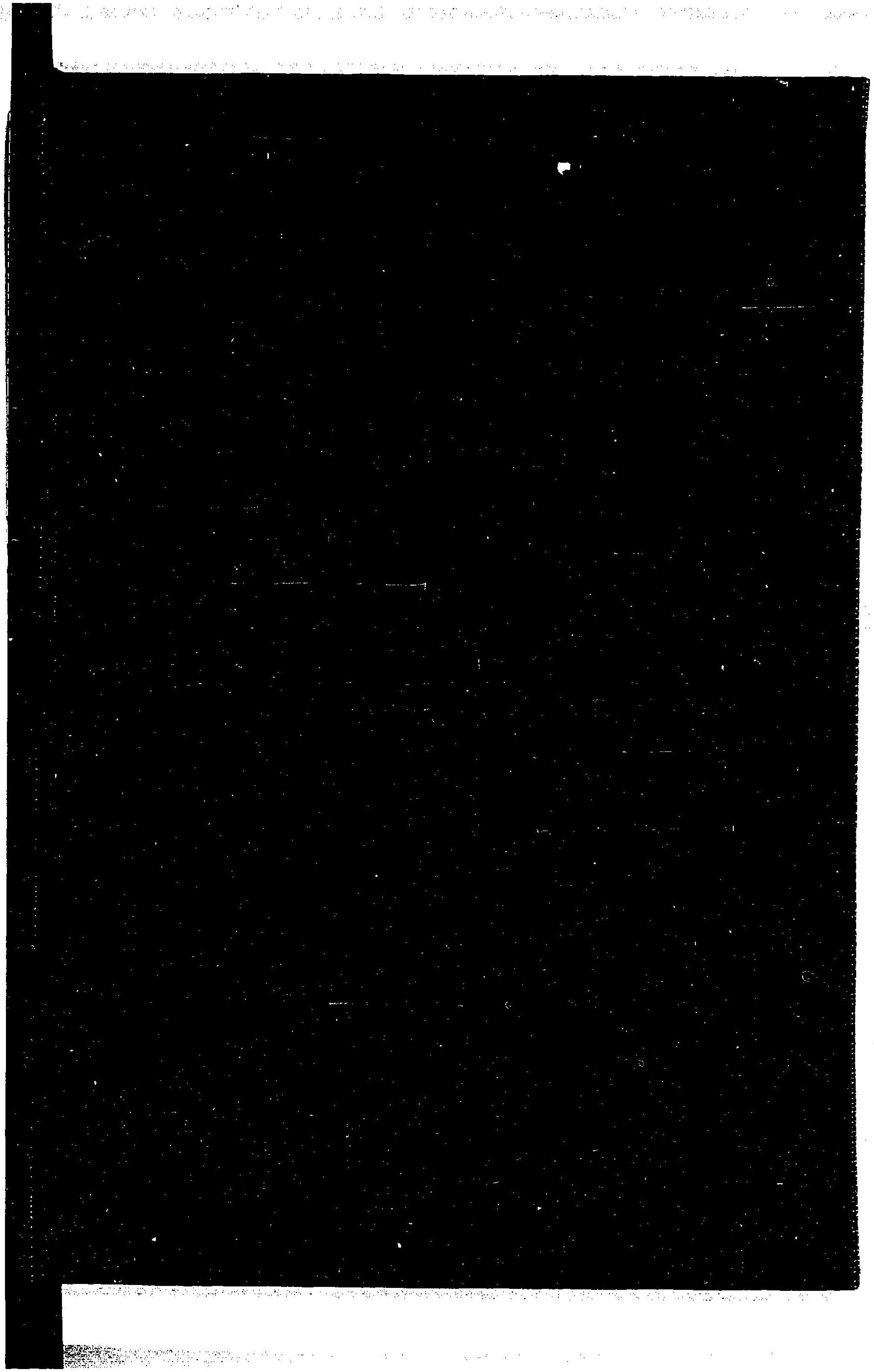
刑事訴訟法釋義下卷終

ヒE3X-84

[illegible]

[illegible]

[illegible]



68
365